

令和3年度

なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

令和3年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 令和4年4月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会
(事務局：名古屋環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-700-7792 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>

※本書掲載内容の無断転載は固くお断りします。



令和4年4月



なごや生物多様性保全活動協議会

目 次

はじめに	1
なごや生物多様性保全活動協議会について	3
動物調査と保全対策部会	7
水辺の生きもの部会	11
生物情報モニタリングデータベース部会	15
里山林・社寺林部会	17
両生類部会	21
広報・PR事業	23
なごや生物多様性サマースクール2021	25
なごや生きもの一斉調査2021 ～テントウムシ編～	27
池干し～猪高緑地すり鉢池～	31
設立10周年記念オンラインシンポジウム	33
定例会	35
会員活動支援	36
佐久島弁天島の生物調査 （「あいちの海」グリーンマップ）	37
大高緑地・琵琶ヶ池の水生物調査 （地球ハグ倶楽部）	38
山崎川 夏の生き物観察会 （山崎川グリーンマップ）	39
地域活動支援	40
生活科授業「むしとなかよし」 （名古屋市立西城小学校）	41
細口池生きもの復活クラブ活動報告2021 （細口池生きもの復活クラブ）	42
助成金事業	43
イタセンパラ保護と人工産卵装置の開発 （愛知県立一宮高等学校 生物部）	44
みつばちと命のサイクルから学ぶ！ ～BeeHappy∞Project～（地球ハグ倶楽部）	45
矢田川河川水の研究と透明樹脂標本の制作 （東邦高等学校科学研究部）	46
名古屋経済大学市邨高校ビオトープのつくり方・考え方・活かし方 （名古屋経済大学市邨高等学校 科学研究部）	47
次世代育成事業「親子で楽しむ昆虫調査会」 （名古屋昆虫同好会）	48
鳴子中央公園における、子育てファミリーとの 協働による雑木林の多様性保全活動 （鳴子きずなの会）	49

会員団体の活動紹介・報告

相生山緑地自然観察会	50
「あいちの海」グリーンマップ	50
愛知守山自然の会	51
雨池ホタルの会	51
大高緑地湿地の会	52
尾張サンショウウオ研究会	52
雑木林研究会	53
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	53
地球ハグ倶楽部	54
中部蜘蛛懇談会	54
東谷山湿地群保全の会	55
中志段味の自然を次世代に伝える会	55
なごや外来種を考える会	56
なごや環境大学実行委員会	56
公益社団法人 名古屋港緑地保全協会	57
名古屋昆虫同好会	57
名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科 長谷川研究室	58
名古屋自然観察会	58
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	59
名古屋市立大学大学院理学研究科附属 生物多様性研究センター	59
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会	60
NPO法人 なごや東山の森づくりの会	60
NPO法人 日進野菜塾	61
日本カメ自然誌研究会	61
日本野鳥の会愛知県支部	62
花水緑の会	62
隼人池を美しくする会	63
NPO法人 藤前干潟を守る会	63
三河淡水生物ネットワーク	64
名城大学野生動物生態研究会	64
名東自然観察会	65
名東自然倶楽部	65
もりづくり会議	66
矢田・庄内川をきれいにする会	66
山崎川グリーンマップ	67
四日市大学 野生動物保全学研究室 （野呂研究室）	67

なごビオの10周年記念

なごビオ（なごや生物多様性保全活動協議会）は、令和3（2021）年5月15日に設立10周年を迎えました。会員の皆様はじめ、なごビオの活動に関心を寄せご参加頂きました皆様に、心より感謝申し上げます。おかげさまで個人会員26名、団体会員40団体、市民調査員1,027名の組織へと発展してきました。

10周年を記念して実施した「拡大版なごや生きもの一斉調査～テントウムシ編～」では、名古屋市立小中学校・幼稚園等に在籍する理科同好の職員で組織される名古屋市理科教育研究会や高校生物部、名古屋市域外の保全団体の皆さまにもご参加頂き、新型コロナウイルス感染への配慮から1地点の調査人数に制限を設けた中で、合計991名の参加を得て、名古屋市内73地点名古屋市外12地点計85地点で調査を実施することが出来ました。参加者数も対象範囲もこれまでにない規模の一斉調査となりました。またその結果、テントウムシ科の昆虫1,676個体42種を採集し、その内、外来種5種を含め13種の名古屋市初記録種を確認するなど、なごやの生物多様性の把握に対して大きな成果を得られました（詳しくは、「なごや生きもの一斉調査2021テントウムシ編 調査結果報告書」をご覧ください）。

令和4（2022）年1月22日(土)に、なごや生物多様性センター（以下、センターと記す）との共催で開催した「設立10周年記念オンラインシンポジウムなごやの生物多様性～2030年に向けて～」では、生物多様性保全に関するご専門で国際的にも著名な五箇公一さん（国立環境研究所生物多様性領域室長）に、コロナ禍を機により重要視されている「ワンヘルス～生物多様性保全と感染症管理～」のご講演を、香坂玲さん（名古屋大学大学院環境学研究科教授）には今後の提言として、「愛知なごやから考える生物多様性のこれからの10年」と題して、国内外の政策となごビオとの関係性、今後の方向性について

のご助言を頂きました。また、先生お二方となごビオ幹事、高校の生物部の皆さんを交えて、なごビオの設立当初の想いを共有し、都市における生物多様性保全、今後の担い手のあり方等について意見交換が出来る貴重な機会となりました。

また、3月にはセンターと10周年記念誌「10年のあゆみ」を発行しました。センターとなごビオの設立からこれまでの経緯や、これまでの関係各位の想いや今後への期待、未来へのメッセージ等を込めた充実の内容となっております。またぜひご覧頂ければと思います。

生物多様性保全の国内外の動向

生物多様性保全に関わる社会動向として、平成27（2015）年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）が注目されており、令和2（2020）年からの新型コロナウイルスの蔓延を機として、人間社会の健康にとって、自然生態系・家畜・人のいずれもが健康であることが重要であるとの「One Health（ワンヘルス）」の考え方が広まり、生物多様性保全は、より社会経済の中に浸透した形で、行動目標として求められるようになってきました。また、令和3（2021）年10月に、中国の昆明で開催された生物多様性条約第15回締約国会議（CBD-COP15）において、中国が生物多様性保全を国家的に取り組むべき重要な分野と位置付け、これまでになく積極的な姿勢が示されました。この会議では、保護地域外の保全と言われる OECM（Other Effective area-based Conservation Measures：保護地域以外の地域をベースとする効果的な保全手段）や、絶滅危惧種以外の種（普通種）の保全による、国土全体の生態系の健全性の確保の重要性が見直され、令和12（2030）年までに陸域及び海域のそれぞれ30%を、保護地域やOECMにより保全する目標の設定が検討されています。この考え方は、現在検討中の次期生物多様性国家戦略に

においても同様に重視されています。OECMでは、公有地だけでなく民有地における樹林地等も対象地として検討されており、都市圏に数多く存在する社寺林やその他の都市緑地等もその候補となります。

国内においてももう一つ大きな動きとして挙げられるのが、令和元（2019）年度から譲与が開始された「森林環境譲与税」と、令和6（2024）年度から個人住民税均等割の枠組みを用いて、国税として1人年額1,000円を市町村が賦課徴収することとされる「森林環境税」です。これらは、平成30（2018）年5月に成立した森林経営管理法を踏まえ、パリ協定における温室効果ガス排出削減目標の達成や、災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源の確保を目的として創設されるものですが、都市圏の森林保全、里山保全にも適用され始めており、今後もこの財源による保全事業や保全活動支援が期待されます。このように、生物多様性保全に関する具体的な動きや目標設定がなされ始めており、今後国内外で、生物多様性保全活動の潮目が変わってくることを期待されます。

都市化時代と生物多様性保全

国際的に都市化時代を迎える21世紀において、都市開発、都市生活のあり方、生物多様性保全、持続可能性の向上という課題は、長期的かつ普遍的な課題になると考えられます。日本の都市圏人口が今や90%を超えていることから、多くの国民にとって、身近な自然とは他ならぬ都市圏の自然になるとの認識が重要に思います。その自然に求められる意義は、第一義である在来種や絶滅危惧種等の保全に加えて、教育的側面や福祉的側面の重要性が増してくるでしょう。

都市域においても、地域の生物多様性保全には、地域の市民、保全団体、専門家、行政による市民科学の充実が、必要不可欠であると言えます。なごビオが協議会のかたちで、多様な主

体の得意分野を持ち寄り事業展開する組織であることは、なごや都市圏の生物多様性保全を担う組織として大きな期待が持てると考えています。

こうした中で、名古屋市環境局では、名古屋市の長期戦略である「生物多様性2050なごや戦略」に対して、令和4（2020）年度に「なごや生物多様性保全実行計画2030」の検討、作成が予定されており、なごビオは、実行計画立案と推進に一翼を担う組織として、政策提言を行います。

なごビオとなごやの生物多様性保全

なごビオの各部長はこの地域を代表する専門家が担い、なごやの生物多様性の実態についての専門的かつ最新の情報がなごビオに集まる体制になりつつあります。令和3（2021）年度の両生類部会の発足に続き、令和4（2022）年度は昆虫部会が発足予定です。これで、哺乳類・爬虫類を主な対象とする動物部会（動物調査と保全対策部会）、主に水生生物（魚類・甲殻類・水生植物等）を対象とする水辺部会（水辺の生きもの部会）、主に陸生植物を対象とする里山林・社寺林部会、主に両生類を対象とする両生類部会、そして、主に昆虫類を対象とする昆虫部会が揃うこととなり、加えて既存資料や調査結果のデジタル化と公開を行うデータベース部会（生物情報モニタリングデータベース部会）という体制になります。都市圏において保全対象となることが多い生物の分類群についての部会が、より充実することになります。こうした体制で、個人でも団体でも、子供でも大人でも、楽しく、奥深く生物多様性とふれあう活動について、これからも磨きをかけていきます。

令和4（2022）年度が、次の10年に向けての良い船出の年となる様に、幹事メンバー一同、気持ちを新たに取り組んでいく所存です。これからも皆様からのご支援、ご参加、そしてご指導を賜りたいと存じます。

なごや生物多様性保全活動協議会について

協議会の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に110箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池における生態系の劣化が進んでいると言われていています。

COP10開催決定を契機に、平成20年（2008）度から3年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働で、ため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成23（2011）年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」という）を平成23年5月15日に設立しました。

協議会の設立目的は、なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践することです。

協議会の構成

協議会は、令和4（2022）年3月末現在、40の団体会員、26名の個人会員、名古屋市で構成しています。1年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長3名・監事2名）と幹事（19名）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・人員等の計画を作成し、実施しています。事務

局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備・連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへ参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を毎月案内しています。（令和4年3月14日現在・登録者数1,027名）

協議会の活動

協議会は設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で、生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「名古屋市環境局なごや生物多様性センター」が担っており、名古屋市の負担金により事業を実施しています。

協議会が令和3（2021）年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシippアカミミガメ・クビアカツヤカミキリ・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内の里山・緑地・ため池などにおける生物調査等を実施しました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、7月及び8月に、小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール2021」を、9月には「なごや生きもの一斉調査2021」として、テントウムシの調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすため、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

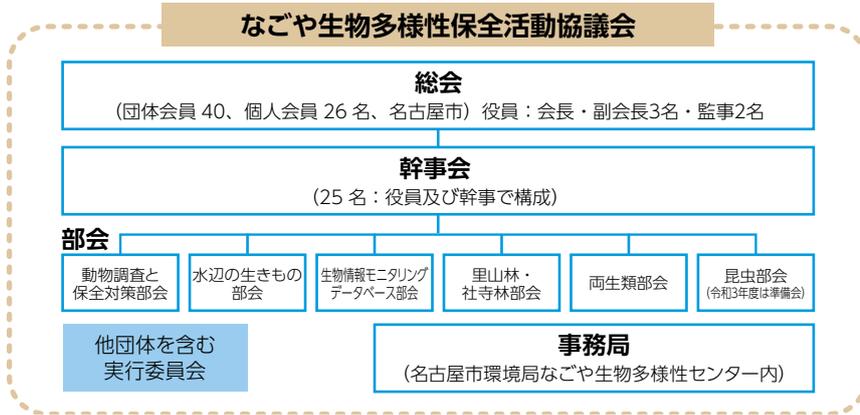
また、協議会の取り組みを発信する場として、毎年5月には活動報告会を開催しています。

協議会は、令和3年に設立10周年を迎えました。この2年間は、新型コロナウイルスによる未曾有の社会状況の中で、様々な場面で活動の制限を余儀なくされましたが、これを機に新た

な部会である両生類部会や昆虫部会（令和3年度は準備会）を設置するなど、組織の改編等に

も取り組み、なごやの生物多様性保全を担う組織としての歩みを止めることなく邁進してきました。

令和3年度協議会の組織・構成



部会一覧

- 動物調査と保全対策部会
- 水辺の生きもの部会
- 生物情報モニタリングデータベース部会
- 里山林・社寺林部会
- 両生類部会
- 昆虫部会(令和3年度は準備会)

幹事一覧

(令和4年3月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
石原 則義	愛知守山自然の会	
梅本 洋子	花水緑の会	副会長
大塚 徹	個人会員（市内外来種及びため池調査）	
大沼 淳一	個人会員（専門分野／水質）	
大矢 美紀	山崎川グリーンマップ	
熊澤 慶伯	名古屋市立大学大学院理学研究科生物多様性研究センター・教授	
小菅 崇之	個人会員（専門分野／水生植物）	副会長
榊原 靖	名古屋市環境科学調査センター研究員	
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会	
鷺見 順子	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	監事
高木 和彦	名東自然倶楽部	
瀧川 正子	NPO法人なごや東山の森づくりの会	
寺西 慶徳	なごや環境大学実行委員会	監事
戸田 尚希	名古屋昆虫同好会	
富田 啓介	愛知学院大学教養部准教授	
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
野呂 達哉	四日市大学環境情報学部野生生物保全学研究室特任准教授	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科准教授	副会長
長谷川 泰洋	名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室	会長
藤谷 武史	尾張サンショウウオ研究会	
堀田 守	名東自然観察会	
松村 豊重	名古屋市環境局環境企画部主幹（生物多様性の保全担当）	
眞弓 浩二	雑木林研究会	
森山 昭彦	中部大学応用生物学部環境生物科学科教授	
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 会員一覧

● 団体会員

団体名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
東谷山湿地群保全の会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会
名古屋昆虫同好会
名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人 なごや東山の森づくりの会
NPO法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
NPO法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
野生動物生態研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ
四日市大学環境情報学部野生生物保全学研究室

(令和4年3月末現在・敬称略)

● 個人会員

氏名
飯尾 俊介
伊東 英幸
今井 洸貴
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
加藤 航大
川瀬 基弘
小菅 崇之
齊藤 毅
榊原 靖
佐藤 裕美子
高木 順夫
高見 真宏
高山 博好
津田 智
津田 美子
土山 ふみ
寺本 匡寛
研谷 厚
富田 啓介
橋本 啓史
伴 知幾
松沢 孝晋
守谷 茂樹
森山 昭彦

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

通常総会の開催

開催日	審議事項
5月9日	1 令和2年度事業報告について 2 令和2年度決算報告について 3 令和2年度会計監査報告について 4 令和3年度役員選出について 5 令和3年度事業計画（案）について 6 令和3年度収支予算（案）について 7 規約改正（案）について

幹事会の開催

回	日付	協議・報告事項
第1回	5月27日	1 部会事業報告 2 謝金規程内規の改定（案） 3 会員活動支援 4 地域活動支援
第2回	6月24日	1 部会事業報告 2 令和3年度収支予算変更（案） 3 環境デーなごやへの出展 4 協議会パンフレット（案） 5 令和2年度活動報告書資料編の作成
第3回	7月29日	1 部会事業報告 2 ロゴマーク審査基準（案） 3 環境デーなごや出展（案） 4 地域活動支援 5 定例会の開催
第4回	8月26日	1 部会事業報告 2 ロゴマーク2次審査結果及び最優秀作品・優秀作品の選定 3 オンライン定例会の開催
第5回	9月30日	1 部会事業報告 2 ロゴマークの決定 3 環境デーなごや（オンライン開催）
第6回	10月28日	1 部会事業報告 2 ロゴマークの決定 3 環境デーなごや（オンライン開催） 4 地域活動支援
第7回	11月25日	1 部会事業報告等 2 令和4年度予算の枠組み 3 会員活動支援
第8回	1月27日	1 部会事業報告 2 令和3年度予算の変更 3 令和4年度事業計画・予算 4 令和4年度総会及び令和3年度活動報告会 5 新規会員 6 会員活動支援
第9回	2月24日	1 部会事業報告 2 令和4年度予算（調整案） 3 令和3年度活動報告会の講師 4 会員活動支援

動物調査と保全対策部会

部会長 野呂 達哉・曾根 啓子・宇地原 永吉

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体等）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境を明らかにすることを目的としている。

また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を実施している。それらの結果や標本については「なごや生物多様性センター」に収蔵・蓄積している。

さらに、これらの結果や資料を基に、外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施している。

その他、活動内容や成果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

主な活動内容

- カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除
- ニホンイシガメの保全
- 哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除
- コウモリ類の調査と保全
- 標本の作製と分析

今年度の活動記録

●カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除

内容 カゴ罟を使用したカメ類の捕獲調査は以下の場所と日程で実施した。

- 隼人池（昭和区）：5月24日、25日、
6月16日、17日、18日
- 山崎川（瑞穂区）：7月17日、18日
- 細口池（天白区）：8月20日、21日
- 牧野池（名東区）：8月16日、17日、
10月30日、31日
- デッコ池（名東区）：10月8日、9日、10日



市民とのカメ類調査（牧野池）

また、浮島型罟を使用したカメ類の捕獲調査は、以下の地域と日程で実施した。
隼人池（昭和区）：4月1日～設置中
二ツ池（守山区）：4月1日～設置中
細口池（天白区）：4月1日～設置中
すり鉢池（名東区）：2020年9月14日～
2021年11月10日

連携 二ツ池の自然と緑を守る会、隼人池を美しくする会、名東自然倶楽部、細口池生きもの復活クラブ、山崎川グリーンマップ、牧野ヶ池緑地保全協議会、名古屋ECO動物海洋専門学校、名城大学ほか。



浮島型罟での捕獲（すり鉢池）

●ニホンイシガメの保全

内容 市内で個体数を減らしている本種の保全を目的とした保護を行い、野生下の個体数の回復のための域外保全の取り組みを実施した。
新たに繁殖スペースを整備し、環境を整えた。

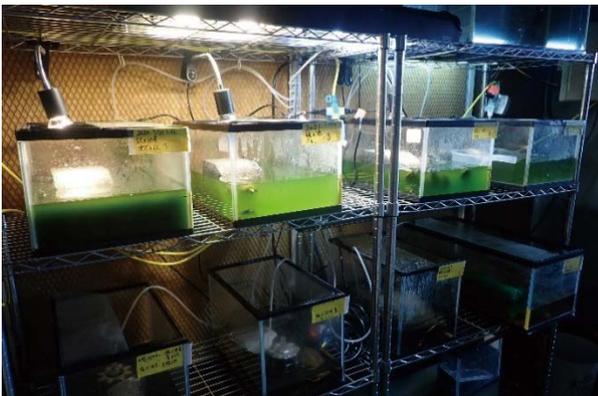
連携 名古屋ECO動物海洋専門学校、名城大学ほか。



カメ類繁殖エリアの整備 (なごや生物多様性センター)



繁殖用生簀と学生による卵の回収作業 (なごや生物多様性センター)



孵化した仔ガメの管理 (なごや生物多様性センター)

●哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除

内容 センサーカメラの設置は以下の場所で行った。

大高緑地：4月1日～設置中

東山動植物園：4月1日～設置中

小幡緑地：4月1日～設置中

東山公園南部：4月1日～設置中

平和公園：4月1日～設置中

猪高緑地：9月7日～設置中

明德公園：3月に予定

アライグマ等外来哺乳類の防除は以下の場所で行った。

小幡緑地：2月15日～1か月間程度

その他、小型哺乳類の調査を3月に予定。



センサーカメラの設置 (猪高緑地)



箱罠の設置 (小幡緑地)

動物調査と保全対策部会

連携 花水緑の会、名東自然倶楽部、愛知守山自然の会、名古屋大学未来材料・システム研究所林研究室、四日市大学。

●コウモリ類の調査と保全

内容 コウモリ類の分布調査のため、以下の地域で音声調査を実施した。音声の録音は、徒歩、車でのルート・センサス、定点での自動録音により行った。

東山公園～星ヶ丘：4月12日

大高緑地～東山公園：4月15日

なごや生物多様性センター

～東山公園：4月19日

天白ゴルフ場～東山公園：4月21日

才井戸流：7月5日～設置中

名古屋城～東山公園：9月7日、11日、
10月7日



車載した録音用マイク



自動録音装置の設置（才井戸流）

東山公園～小幡緑地：9月24日

庄内川（導流堤）：3月に予定

連携 中志段味の自然を次世代に伝える会、名古屋市科学館。

●標本の作製と分析

内容 なごや生物多様性センターで収集している動物（アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、シベリアイタチ等）についての解剖と標本作製を実施した。作製した標本をなごや生物多様性センターに収蔵するとともに、大学生の卒業論文に協力した。名城大学野生動物生態研究会：
1回目（5月15日）、2回目（5月29日）、
3回目（6月10日）、4回目（3月11日）
四日市大学：月3～4回（5～12月）

連携 名城大学野生動物生態研究会、四日市大学、なごや生物多様性センター。



ヌートリアの解剖と標本作製（なごや生物多様性センター）

結果の概要と今後について

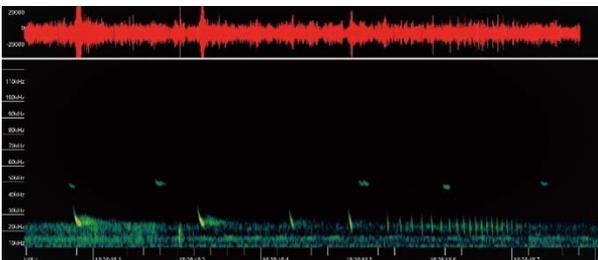
調査結果については、今後、「資料編」および機関誌「なごやの生物多様性」でまとめる予定である。



二ツ池（守山区）で浮島型ワナにて捕獲したアカミミガメ



ネコの餌場でネコを追い払うアカギツネ（市内の緑地）



2種類のコウモリ類のソナグラム（名古屋城外堀）



標本化したシベリアイタチ（なごや生物多様性センター）

水辺の生きものの部会

早川 凌平・小菅 崇之・宇地原 永吉・浅香 智也・岡村 祐里子・安田 健一

はじめに

水辺の生きものの部会では、名古屋市及びその近郊にある水域に生息・生育する水辺の生きものについて、協議会員、市民調査員、学生、専門家、保全団体などと協働で、分布調査、生息・生育環境調査を行っています。これらの活動から得られた知見を発信し、在来種の保全対策や外来種の防除対策を計画・実施することにより、生物多様性の保全に寄与しています。

令和3年度の主な事業

- 池干しモニタリング調査
- なごやの希少種対策
- 外来種対策及び普及啓発

令和3年度の活動記録

●池干しモニタリング調査

1. すり鉢池（猪高緑地）

2021年11月に実施したすり鉢池の池干しに先立ち、予め生物相を把握しておく必要があるため、同年7月17日にタモ網とモンドリを用いたモニタリング調査を行いました。



図1. ミナミメダカ

確認された種は、ヌマエビ類、スジエビ、アメリカザリガニといった甲殻類が大半を占めて

いました。他にはブルーギル、ウシガエルといった特定外来生物も確認されました。また名古屋市内でも多く見られるカダヤシは確認されず、全国的に減少している、在来種のミナミメダカ（図1）を7個体確認しました。

同年2月にもモニタリング調査が行われており、フナやモツゴも確認されていることから、すり鉢池には希少なミナミメダカをはじめ、多くの在来種が生息していることが分かりました。

執筆者：早川 凌平

2. とだがわ生態園（戸田川緑地）

とだがわ生態園では2018年度に、希少淡水魚であるカワバタモロコの保全池として機能させるために、池干しが行われました。実際に2019年3月にカワバタモロコを放流し、それ以降、年に一回のペースで、池干し後の生物相変化の把握と、保全機能の評価を目的としたモニタリング調査を行ってきました。



図2. 調査風景

2021年6月26日に行われたモニタリング調査では、例年通りタモ網とモンドリを用いて捕獲をし、確認された生物の種名と個体数を記録しました。結果としてはこれまでのモニタリング調査と大差なく、ヌマエビ類、モツゴ、アメリカザリガニが大半を占めていました。カワバタモロコに関しても、昨年度に引き続き確認できませんでした。このことから放流したカワバタ

モロコが繁殖している可能性は低く、保全池としては機能していないと考えられます。

今後はこの場所を、次世代の環境保全に携わる人材育成の場として機能させるなど、モニタリング調査を行う目的を再考する必要があります。

執筆者：早川 凌平

3. 大根池（天白公園）

2011年に池干しを行った大根池において、10年振りとなる調査を7月17日に実施しました。アメリカザリガニが一番多く優占種であり、次いでスジエビ、ヌマエビ、モツゴの順に個体数が多い結果となりました。

今回の調査では、池干し後にも確認できていた水生昆虫の一種が、ほとんど確認できない状況であることが分かりました。これは緑地部の一部が消失してしまったことや、アメリカザリガニの増殖による影響であると考えられます。

また、池干し時に確認されていたスジエビは、今回の調査ではチュウゴクスジエビのみでした。放流され種が置き換わってしまった可能性が疑われますが、池干し当時は外来スジエビの存在が明らかではありませんでした。標本を精査することで、その変遷を確認することができるので、今後はDNAによる分析を進めて行きたいと考えています。

執筆者：宇地原 永吉

4. 竜巻池（小幡緑地）

2012年に池干しを行った竜巻池において、10月5日に調査を実施しました。ウシガエルの幼体、テナガエビ、アメリカザリガニの順に多く捕獲され、魚類についてはカダヤシのみが捕獲されました。

また、目視によりオオクチバスの幼魚、ブルーギルが見られました。オオクチバスは池干し後に放流された可能性が高いと思われます。

その他、手のひらサイズのヌマガイや、10年

振りにマミズクラゲ（図3）を確認することができました。



図3. マミズクラゲ (20mm)

しかし、2月に確認できていたモツゴを捕獲することができませんでした。ウシガエルの増加による在来種の捕食が脅威となるため、今後も防除と対策が必要です。

執筆者：宇地原 永吉

5. ガマ池（庄内緑地）

2019年度に行われた池干しから生物相の変化を把握するために、2021年12月19日、昨年度に引き続きモニタリング調査を行いました。

昨年度のモニタリング調査では、池干し時に多く確認されたヤハズヌマガイ、ヨシノボリ類は大幅に減少しており、グロキディウム幼生に関しては確認できませんでした。

今年度のモニタリング調査ではヤハズヌマガイ、ヨシノボリ類は一切確認できず、継続的に確認されていたフナ、モツゴ、スジエビをはじめとした魚類・甲殻類の捕獲はゼロという結果になりました。確認できたのはミズカマキリ（図4）、ヤゴといった水生昆虫のみでした。ガマ池と繋がるポート池では、モンドリでモツゴとブルーギルが捕獲されましたが、ガマ池で魚類と甲殻類が確認できなかった原因は不明です。

施設管理者によると、夏頃には何も採取できなかったという事であったため、夏前に水質調査を含めた再調査を行うべきだと考えられます。



図4. ミズカマキリ

執筆者：早川 凌平

●なごやの希少種対策

1. スナヤツメ捕獲調査 (才井戸流)



図5. 調査の様子

守山区の才井戸流において、かつて生息情報のあったスナヤツメの調査を行いました(図5)。調査を行った日は、2018年3月18日、2019年3月11日、2020年3月28日、2021年3月28日の4年間にかけて行いました。

方法については水路の底にたまる泥ごと、タモ網で掬いとることや、シャベルによる掘り起こしでした。しかし、スナヤツメは確認できませんでした。確認できた魚種は、タモロコ、ドジョウ、カラドジョウ、ミナミメダカ、イエメダカ(ヒメダカ)でした。

名古屋市でスナヤツメが確認されているところはこの才井戸流のみであるため、人知れず生息していればよいと思います。

執筆者：浅香 智也

2. スナヤツメ環境DNA調査 (才井戸流)

生きものが活動するうえで体から出た粘液や糞などには、その生きもののDNAが含まれています。水や土壌といった、生きものが生息する媒体の中に残されたDNAのことを環境DNAと呼びます。環境DNAを調べることで、その場所に目的の生きものが生息しているのか、或いはどのような生きものが生息しているのかを推定することができます。才井戸流にスナヤツメが今も生息しているのか、環境DNAによる調査を行いました。

2021年6月6日に才井戸流の水路を流れる水を採取し、丹羽ら(2018)の報告を参考に、スナヤツメ(南方種)のDNAの検出を試みしました(図6)。



図6. 採水・濃縮の様子

しかし、今回の調査では、スナヤツメ(南方種)のDNAは検出できませんでした。

執筆者：岡村 祐里子

3. 水田雑草の調査

千種区、東山の森の水田において、2015年に絶滅危惧種のトリゲモ類が確認されましたが、

2019年秋には全てのトリゲモ類が消失し、2020年7月には再度復活しました。これはアメリカザリガニの駆除による成果だと考えています。

2021年は8月中旬に調査を行い、トリゲモ類3種の生育を確認しました。その他の水田雑草に関しては、フラスコモ類、ヒメミズワラビ、コナギ、ミゾハコベ、ヒレタゴボウ、アブノメ、イグサ、ウキクサ、アオウキクサが確認できました。しかしながら、9月の時点ではトリゲモ類が全て消失していました。原因は再度、ザリガニが増加して食べられてしまったのだと疑っています。

執筆者：小菅 崇之

4. 名古屋城オニバス調査

8月中旬に調査を行いました。本年は本葉をもつオニバスを5個体、観察することができました。特に最大の個体は最大で直径87cmの葉を展開していました。



図7. 最大の葉を持つオニバス

他の本葉を持つオニバスの葉のそれぞれの最大サイズは、それぞれ52cm、42cm、36cm、28cm、でした。他に見つかった水草は、オオカナダモ、ヤナギモ、トチカガミ、アオウキクサでした。トチカガミはヨシの影に10個体を見たのみで、ヒシ類、ハス、アカウキクサ類は見られませんでした。

執筆者：小菅 崇之

5. ヌマガイの保護 (猫ヶ洞池)

千種区平和公園の猫ヶ洞池において、ゴミや泥の除去を目的とした浚渫が、土木事務所により行われることとなったため、2021年11月18日に同池に生息するヌマガイの保護を行いました。ヌマガイはイシガイ科の二枚貝で、名古屋市では絶滅危惧ⅠA類に評定されています。

浚渫では水位を下げることによって、池全体の半分程度の面積で池底が露出した状態となるため、乾燥によりヌマガイが死滅してしまいます。そこで露出した泥の中から手探りでヌマガイを採取し、水深のある場所へ放流する作業を行いました(図8)。



図8. 採取したヌマガイ

当日は広大な面積をカバーするため、協議会員だけでなく(株)サンゲツの皆さんなどにも協力頂き、総勢47名で198個のヌマガイと多数のヒメタニシを保護することができました。

執筆者：安田 健一

生物情報モニタリングデータベース部会

部会長 橋本 啓史

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会（なごびオ）の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成23年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布（確認）状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、25種の生物の分布情報の収集と7種の分布図の発信を行っている。また、昔の写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成、空中写真の蓄積も行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

今年度の活動記録

●部会の開催

今年度は2回の部会を開催した。

●生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

なごびオのウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは表1に示す25種類の動植物である。

今年度は、なごや生物多様性センターで開設した新しいデータベースへの移行期間であったため積極的な市民への呼びかけをしなかったが、

令和3年4月から令和4年2月9日までに15件の情報が寄せられた。種別ではアライグマの5件が最多であった（表2）。

表1. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippiaアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル、ウシガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス（アマゴ）
昆虫	タイワンタケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン

表2. 種ごとの1年間に情報が寄せられた件数

分類	種名	件数
哺乳類	アライグマ	5
	タヌキ	2
	ヌートリア	3
は虫類	ニホンスッポン	1
	ミシシippiaアカミミガメ	3
植物	オオキンケイギク	1
合計		15

寄せられた情報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。しかし、確認と登録が遅れ気味であり、申し訳ない。

なお、今後の市民からの生物情報収集の窓口は、なごや生物多様性センターの新しいデータベース「なごや生きものマップ」（図1）となる。



図1. なごや生物多様性センターの新しいデータベース (https://ikimono.city.nagoya.jp/ikimono_map/)

○なごビオの調査結果等のデータベースへの登録

なごや生物多様性センターの新しいデータベースへの統合に向けての検討を行った。新しいデータベースでは住所の項目がなく、位置情報は緯度経度のみであり、緯度経度情報のない既存データの位置情報を取得する必要がある。また、フォーマットの違いからそのまま移行できない情報を失わないような工夫もさらに検討したい。

○生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布（確認）状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム（なごや生物情報閲覧システム）の維持・管理を行ってきたが、こちらもなごや生物多様性センターの新しいデータベースへの移行を検討している。

○写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、写真・フィルムのデジタルデータ化を進めている。今年度は698枚のポジフィルム写真のデジタル化を進めた。

○空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

今年度は当初の予定から変更し、天白溪の集水域での撮影を12月2日に実施した。



図2. 天白溪の集水域のドローン画像

今後について

今後も生物情報および写真の収集・登録・発信をおこなっていくが、生物情報の収集窓口はなごや生物多様性センターの「なごや生きものマップ」となる。この新しいデータベースでは募集する生物情報は特定種に限っていないが、これまでの25種を中心に市民やなごビオ会員・市民調査員に情報提供を呼びかけたい。また、情報がある程度集まった種については、種ごとの分布図を作成し、なごビオの報告書やウェブサイト等で紹介していきたい。

なお、次年度のドローンによる空撮対象地は、平和公園猫ヶ洞池で検討している。

はじめに

里山林・社寺林部会は、本年度で5年目となりました。本部会は、里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業は、昨年度の活動を引き継ぎ、事業①里山・社寺林における植物相、植生調査、事業②希少種の生育環境調査、事業③巨樹の生育状況調査、事業④伐採木の樹幹解析、萌芽調査、事業⑤生物多様性保全、普及に関するアンケート調査を行い、そして、事業⑥日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討を行いました。

事業①及び③では、天白区、中区、昭和区及び東区を主な調査地として、区別に集中的に調査を行い、成果の可視化を図るとともに、区土木事務所や地元保全団体等の地域団体との情報共有を図りました。事業②では、市内で適湿で生物多様性が高い自然林の指標種となりうるカンアオイ類の生育環境を明らかにするため、土壌含水率・地温の年間の変動を明らかにするための調査を始めました。

これらの主な成果として、天白区荒池でカラコギカエデの大きな木、昭和区興正寺でナナミノキの幼木、マメナシの新たな分布を確認するなど、市内初記録となる種や生物多様性保全の知見として重要な種の発見などの成果が得られました。

活動成果の詳細や分析結果は資料編などの別稿にて報告する予定です。本報告では、各事業の活動状況と主な成果、活動の様子を報告します。

令和3年度の主な活動と成果

事業①：里山・社寺林における植物、植生調査

本年度は天白区、中区、昭和区及び東区の主要な樹林地を対象として、フロラリスト及び代表地点における植生調査を行いました。

期 間 2021年5月～2022年2月

場 所 片山神社（5/1）、長母寺（5/1）、興正寺（5/17）、天白公園（5/31）、水広公園（6/14）、フラリエ（6/26）、荒池（6/28、9/20）、神沢池（6/28）、興正寺・興正寺公園（9/10、10/23）、島田緑地（10/4）、黒石市民緑地（10/4）、守山城址・宝勝寺（2/15）、白山神社（2/15）

活動回数 14回

延べ参加人数 60人

成 果 東区内の主要な樹林地3カ所で約280種、天白区はまだ調査地を残しており途中経過ですが、5カ所の調査で約460種のフロラリストが作成出来ました（詳細は資料編に掲載予定です）。昭和区及び中区はまだ1カ所ずつの調査で今後調査地を増やしてリストを作成します。

昨年の名東区に続き、各区内の緑地で1～数個体ずつしかいない種が複数確認されました。また、これまでに名古屋市内で確認されていない複数の種を確認しました。天白区荒池でカラコギカエデの大きな木（図1・2）、昭和区興正寺でナナミノキの幼木（図3）、マメナシ（樹高5.0m〈目測〉、胸高直径7.4cm、枝下高：1.95m、枝張り：東1.0m、西2.1m、南2.6m、北0m）の新たな分布を確認しました。東区徳川園で自生とみられるイヌガヤ、同区木ヶ崎長母寺でツクバネガシの巨樹群を確認しました。また、部会関連の活動で天白区においてホクリクムヨウランを確認しました（詳しくは、なごや生物多様性センター機関誌「なごやの生物多様性 第9巻」参照）。



図1. カラギカエデ（現存する自生個体の初確認）



図2. 荒池の池畔で発見したカラギカエデの大きな木（樹高8.0m〈目測〉、胸高幹周106cm、枝下高1.1m、枝張り：東5.3m、西4.6m、南2.6m、北4.2m）



図3. 興正寺で確認されたナナミノキ（樹高0.91m、直径1.4cm〈地上高10cmで計測〉、枝下高：0.23m、枝張り：東0.45m、西0.60m、南0.57m、北0.40m）

事業②：希少種の生育環境調査

(1) カンアオイ類

市内のカンアオイ類は、ヒメカンアオイ（小型種をゼニバサイシンと言い、東海地方に多い）とスズカカンアオイが確認されています。カンアオイ類の種子はアリ散布のため、移動が大変遅く、その生育地は長らく自然環境が維持されてきたことの証左となります。昨年度に市内の網羅的な分布、個体数等の調査を進め、市内の主要な生育地を明らかにしました。今年度は、その中から、保全活動の実践につなげられる場所を選定し、カンアオイ類の生育にとって重要な土壌含水率、地温の年間変動を記録する調査を開始しました（図4）。生育地、非生育地（尾根側、谷側）で計測を行い、カンアオイ類の生育適地の特性を明らかにします。

期 間 2021年12月～2022年3月

場 所 相生山緑地（12/28、1/10、2/28）、
大高緑地（1/10、2/4）、
天白溪（1/17、3/7）

活動回数 7回

延べ参加人数 28人



図4. カンアオイ類土壌環境調査の機器設置の様子。土壌湿度、地温の年間の変化を記録する。

(2) クロミノニシゴリ

猪高緑地すり鉢池周辺のクロミノニシゴリの実生、幼木の有無と開花の確認を行いました。

期 間 2021年 5月

場 所 猪高緑地 (5/28)

活動回数 1回

延べ参加人数 5人

(3) シマジタムラソウ

東谷山のシマジタムラソウの分布、個体数等の調査を行いました。東谷山とその周辺で100株以上を確認しました。

期 間 2021年 7月

場 所 東谷山 (7/12、15、20)

活動回数 3回

延べ参加人数 12人

協 働 愛知守山自然の会

(4) ササユリ

大高緑地、平和公園のササユリ保全活動エリアにて、開花個体数等の記録を作成しました。

期 間 2021年 5月、10月、2022年 2月

場 所 大高緑地 (5/11、10、12、2/4)、
平和公園 (2/7)

活動回数 4回

延べ参加人数 13人

協 働 大高竹の会、

NPO法人なごや東山の森づくりの会

事業③：巨樹の生育状況調査

事業①の際に、各緑地の巨樹（胸高直径50cm以上を目安）の個体サイズの計測を行いました。

なお、東区木ヶ崎長母寺の植物相調査で、市内では極めて稀なツクバネガシの大径木群を見つけることが出来ました。この実態を記録すべく、境内のツクバネガシの分布とサイズを記録しました。

その結果、境内において、成木10本（内1本は倒木状態）を確認することが出来ました。こ

のうち、胸高直径50cm以上の3個体は樹高、枝下高、胸高直径、枝張りを、それ以下の個体は胸高直径を記録しました（表1）。また、各個体の衰退度や着生植物を合わせて記録しました。実生や幼木もいくらか確認され、実生更新をしていく可能性が示唆されました（図5）。

期 間 2022年 1月17日

場 所 長母寺

参加人数 3人

表1. 長母寺のツクバネガシ大径木のサイズ

id	樹高 (m)	枝下高 (m)	胸高直径 (cm)	枝張 (北) (m)	枝張 (東) (m)	枝張 (南) (m)	枝張 (西) (m)
1	15.5	3.2	30.5/33.5/75.3	5.0	6.0	4.9	4.0
2	13.5	2.3	67.0	3.5	3.5	1.6	4.1
3	16.5	5.5	71.0	3.8	7.9	3.0	3.3

* id 1 の胸高直径は株立ち 3本の記録

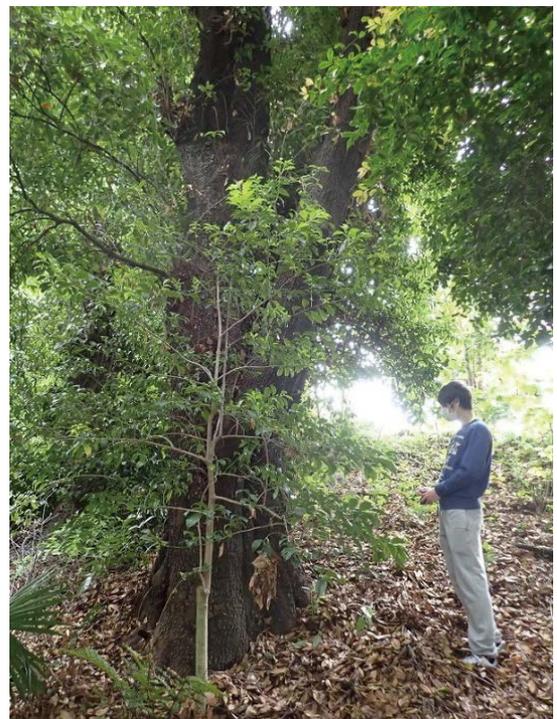


図5. 最も大きな個体（表1中 id 1）

事業④：伐採木の樹幹解析、萌芽調査

平和公園ハンノキ湿地周りや猪高緑地では、大径化したコナラやアベマキがナラ枯れで弱り、危険木となっているため、その伐採が進められ

ています。本活動では、大径化した里山樹木が萌芽再生可能かどうかを明らかにするために、伐採木の切り株からの萌芽状況を記録しています。

本年度は現地での計測は行わずに、次年度以降に行われる伐採木の確認と今後の調査の企画を検討しました。

事業⑤：生物多様性保全、普及に関するアンケート調査

今年度は今後のアンケート調査活動に向けての企画を検討しました。次年度に、なごやの生物多様性に関する認知度調査を実施する案の検討を進めています。

事業⑥：日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討

事業①、④の調査結果をいち早く、効果的に管理者に伝える方法の検討をしています。本年は、各区内樹林地調査のリスト及び巨樹リストの作成を行いました。詳しくは資料編に掲載いたします。

これまでに調査直後に、調査で発見した希少種を伐採されるということが度々起きているため、よりスムーズで効果的な情報共有の仕組みづくりが急務となっています。昭和区興正寺の調査においては、興正寺の管理者の方が調査に同行することで、調査で得られた成果を現場で伝えることが出来ました（図6）。そのことで、市内初記録となるナナミノキや絶滅危惧種のザイフリボク（名古屋市VU）、マメナシ（名古屋市IB）の自生地を直接伝えることが出来ました。

本部会では、希少植物の新たな分布確認が相次いでおり、なごやの生物多様性保全上、重要な情報を得られています。今後もその成果を効果的に活用していくための仕組みづくりを進めていきます。次年度は、天白公園における管理者との現地における意見交換会を予定しています。

また、調査時に希少種につけるための樹名板などの検討を進めています。



図6 興正寺における調査の様子

今後について

一昨年度から、区別及び希少種別に集中的に植物相や植生、および生育状況の実態を明らかにする調査を始めました。その結果、予想を上回る成果を得られています。また、その成果を事業⑥で地域に還元する活動や仕組みづくりを進めていますが、管理者（地元保全団体、社寺の管理者、各区土木事務所など）により早く効果的に情報共有するための仕組みづくりの必要性を感じています。

次年度以降も調査対象とする区、希少種を決めて、集中的に調査を行うことで、地域ごとの植物の分布、希少種の生育実態を明らかにし、その成果の活用を図っていきます。2022年度は、更なる活動の充実とより効果的な啓発、普及（生物多様性の主流化、SDGsへの貢献）を図っていきます。

はじめに

これまで両生類に関する活動は、現在の「動物調査と保全対策部会」や「水辺の生きもの部会」が取り組んできたが、活動の多様化などが原因で、両部会において活動が充分に行えていない事が嫌厭されつつあった。また、市内での両生類の保全や調査活動は、保全団体や研究者が各々に取り組んでいることが大半で、まとまった連携が取れていない状態であった。そのため、市民団体と協議会の双方からの意見で、両生類に関しての共通の課題解決に向け連携していきたいという願いから、両生類部会の発足に至った。

令和3年度の主な事業

- 両生類の現状把握のための生息調査
- ウシガエルとアメリカザリガニの防除
- 生息域内外における保全活動の実施・体制づくり

令和3年度の活動記録

●両生類の現状把握のための生息調査

内容 各地で活動されている地元の保全団体と協力して行う、生息情報の蓄積や現地での捕獲調査および目視調査を行い、基礎情報の収集を実施した。

また、ナゴヤダルマガエルの交雑状況を調べるために、標本の作製とDNAの分析も実施した。

場所 市内の水田・水路：5月24日、7月3日、14日、21日、9月11日、20日、21日
緑地・公園：5月14日

連携 名古屋市立大学、ほか



図1. アカガエルの幼生 (名東区)



図2. ナゴヤダルマガエル (港区)

●ウシガエルとアメリカザリガニの防除

内容 市内に分布を広げている特定外来生物であるウシガエルの防除の実施と緊急対策外来種であるアメリカザリガニの防除を実施した。

場所 猪高緑地：5月14日、6月1日、7月26日、27日、28日

平和公園：5月31日～設置中

解剖分析：7月26日、8月3日

連携 東山の森づくりの会、名東自然倶楽部ほか



図3. ウシガエルの防除活動の様子（すり鉢池）



図5. アズマヒキガエルの域外保全の様子

●生息域内外における保全活動の実施・体制づくり

内容 生息域内保全では、生息環境の保全と保護を持続的に実施するため、保全団体と協議会、管理者のネットワークづくりを行い、市内の両生類の保全を進めている。生息域外保全は、初期減耗を防ぐための保護育成や、危険分散のためになごや生物多様性センター内に域外保全エリアをつくり、保全活動を実施した。

場所 緑地・公園：2021年4月5日、5月24日、6月7日、10月15日、2022年1月19日、21日、2月1日、2日、8日
センター：2021年4月19日～6月7日、2022年3月～6月予定

連携 東山総合公園、東山の森づくりの会ほか



図6. ヤマトサンショウウオの域外保全の様子



図4. 両生類の産卵のための水辺整備

はじめに

令和3年度の広報・PR事業として以下の事業を実施しました。

- ・令和2年度活動報告会
 - ・設立10周年記念オンラインシンポジウム
 - ・池干し～猪高緑地すり鉢池～
 - ・オオキンケイギク対策
 - ・なごや生物多様性サマースクール
 - ・なごや生きもの一斉調査～テントウムシ編～
 - ・普及啓発事業
- *シンポジウム、池干し、サマースクール、一斉調査については別頁に掲載

令和2年度活動報告会

令和2年度活動報告会を「なごや生きもの報告会～調査から見た今のなごや」と題し、以下の日程・会場で開催しました。報告会では、3部会（動物、水辺、里山林・社寺林）の活動、一斉調査（バッタ）、助成金交付団体（愛知県立佐屋高校）の活動について報告しました。

日時 令和3年5月9日(日)

会場 名古屋市立大学病院
病棟・中央診療棟3階大ホール

参加者 86人

オオキンケイギク対策

特定外来生物であるオオキンケイギク対策として、山崎川での駆除活動と東山新池での抜き取り会を以下の内容で実施しました。山崎川の駆除活動は例年、名古屋建設業協会（名建協）と連携して行っていますが、今年度はコロナ禍で名建協の活動が中止となり、なごBio会員のみに実施しました。抜き取り会には一般市民にも参加していただき、オオキンケイギク対策の普及啓発を行いました。

●山崎川の駆除活動

日時 令和3年5月3日(月)

場所 山崎川左岸（萩山橋周辺）

参加者 5人

駆除量 45リットルごみ袋12袋

●抜き取り会

日時 令和3年5月22日(土)

場所 東山新池周辺

参加者 39人（市民30人）

駆除量 90リットルごみ袋14袋



図1. 抜き取り会の様子

普及啓発事業

●なごBioロゴマークの決定

令和2年度に協議会の愛称を「なごBio」に決定したのに続いて、ロゴマークを募集し決定しました。なごBio会員、市民生きもの調査員及びデザイン系の大学・専門学校の学生から作品を募り、幹事会の審査を経て下記のデザインに決定しました。審査の結果は以下のとおりです。最優秀作・優秀作の応募者には会長から表彰状及び図書カードを進呈しました。

募集期間 令和3年4月1日～6月30日

応募作品 41作品

最優秀作 小林さん

優秀作 木戸口さん

ロゴマーク





図2. 表彰式の様子
(左から木戸口さん、小林さん、長谷川会長)

●おうちで環境デーなごや2021

「おうちで環境デーなごや2021中央行事」はコロナ禍により昨年に続いてオンライン開催となりました。なごビオは動画出展で参加しました。また、12月11日(土)・12日(日)にイオンモールナゴヤドーム前で開催されたパネル展にもパネルを出展しました。



図3. パネル展への出展

●なごビオパンフレット

なごビオのパンフレットを作成し、環境デーなごや等のイベントで配布しました。



●クビアカツヤカミキリ被害樹木調査

2019年6月に名古屋市内で初確認された、特定外来生物クビアカツヤカミキリにより、サクラやウメなどの樹木が衰弱・枯死する被害が、市南西部を中心に広がっています。

中でも戸田川緑地(港・中川区)は被害が確認されているエリアに位置し、1,000本以上のサクラが植樹されていることから被害の拡大が懸念されます。

そこで公園管理者と協力し「市民いきもの調査員」の皆さんに“調査員”として活躍して頂くため、7月11日(日)に「クビアカツヤカミキリ被害樹木調査in戸田川緑地」を開催しました。

当日は、市民調査員10人の他、なごビオ会員など総勢25人が、6班に分かれて園内全域で目視調査を行い、被害樹木18本を新たに確認した他、クビアカツヤカミキリの成虫5匹を駆除しました。

なお、確認された被害樹木については、後日、公園管理者による防除が行われました。



図4. 確認された被害樹木

なごや生物多様性サマースクール2021

はじめに

当協議会では生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を開催しています。

「夏休みの宿題 応援します！」をテーマに、子どもたちの夏休みの自由研究の助けとなるよう、協議会会員が講師となり、専門知識を活かした様々な講座を開催。里山や川など身近な自然環境に生息・生育する生きものたちに、直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで、幅広い講座を企画しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が貴重な体験や学びにつながり、少しでも生物多様性に興味を持ってもらうきっかけとなるよう心がけています。

毎年、定員をはるかに超える応募があり、夏休みには欠かせないイベントとなっています。

令和3年度の活動記録

開催期間

令和3年7月23日(金)～8月7日(土)

講座数

全12講座

参加者数

延べ196名 (同伴者延べ162名)

講師人数

延べ53名



① 猪高緑地の水の生き物観察



講師 名東自然倶楽部
日時 7月23日(金) 9:00～11:00
会場 猪高緑地 すり鉢池 (名東区)
定員 15名

② 翠松園緑地の昆虫探し



講師 ニツ池の自然と緑を守る会
日時 7月24日(土) 10:00～12:00
会場 翠松園緑地 (守山区)
定員 15名

③ 竹林調査と水鉄砲作り



講師 花水緑の会 (大高竹の会)
日時 7月24日(土) 10:00～12:00
会場 大高緑地 猪根の森 (緑区)
定員 15名



4 天白川の水源地を訪ねてみよう



講師 名古屋自然観察会
 日時 7月31日(土) 9:30~12:00
 会場 天白川支流岩藤川上流部(日進市)
 定員 15名

5 森の落ち葉と土の中の生き物たち



講師 なごや東山の森づくりの会
 日時 7月31日(土) 9:30~12:00
 会場 なごや東山の森 暮らしの森(千種区)
 定員 12名

6 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
 日時 7月31日(土) 9:50~12:00
 会場 相生山緑地オアシスの森(天白区)
 定員 10名

7 外来種の昆虫を捕って駆除しよう



講師 なごや外来種を考える会
 日時 8月1日(日) 9:30~11:30
 会場 猪高緑地(名東区)
 定員 20名

8 調べてみよう! 川の生きもの



講師 NPO法人日進野菜塾
 日時 8月1日(日) 9:45~11:45
 会場 岩崎川下流(日進市)
 定員 20名

9 植田川の水生生物調べ



講師 名古屋市環境科学調査センター
 日時 8月3日(火) 9:30~12:00
 会場 植田川(天白区)
 なごや生物多様性センター(天白区)
 定員 20名

10 大矢川源流の生きもの探し



講師 愛知守山自然の会
 日時 8月4日(水) 10:00~12:00
 会場 大矢川源流域(守山区)
 定員 20名

11 チョウの採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
 日時 8月7日(土) 9:00~15:30
 会場 猪高緑地(名東区)
 なごや生物多様性センター(天白区)
 定員 20名

12 甲虫の採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
 日時 8月7日(土) 9:00~15:30
 会場 猪高緑地(名東区)
 なごや生物多様性センター(天白区)
 定員 20名



なごや生きものの一斉調査2021～テントウムシ編～

はじめに

「なごや生きものの一斉調査」の目的は、多くの市民の方々に身近な自然や生き物に親しみと関心を持っていただくことです。今回の調査は昨年のバツタに続いて、身近な昆虫である「テントウムシ」を対象としました。

ワーキンググループ

今回の一斉調査では、なごビオ会員のうち昆虫に詳しい者で構成したワーキンググループ(長谷川泰洋、梅本洋子、石原則義、戸田尚希、岩田圭二、櫻谷保之、事務局)で調査方法等を検討しました。

主な活動内容

今年度は、なごビオ設立10周年に当たることから、一斉調査を10周年記念事業の一つと位置づけ、学校や他都市の保全団体とも連携し、市外も含めて例年よりも広い範囲、多くの地点で調査を実施しました。

●実施体制

主催 なごや生物多様性保全活動協議会
(事務局:名古屋市環境局なごや生物多様性センター)

協力 公益財団法人名古屋市みどりの協会
連携団体 名古屋市理科教育研究会、名古屋経済大学市邨高校、NPO法人海上の森の会、NPO法人もりの学舎自然学校、二村山豊かな里山づくりの会、公益財団法人愛知県都市整備協会、岩間造園(株)、一般財団法人公園財団、公益財団法人日本野鳥の会、NPO法人犬山里山学研究所、名古屋産業大学長谷川研究室

●実施内容

1. 名古屋市理科教育研究会の現地演習

日程 8月21日(土)
場所 千種スポーツセンター、東山の森(くらしの森)
講師 戸田尚希氏、岩田圭二氏、櫻谷保之氏
参加者 14人

2. 調査リーダー事前講習会

日程 9月12日(日)、13日(月)、14日(火)
場所 なごや生物多様性センター
講師 戸田尚希氏、岩田圭二氏、櫻谷保之氏
参加者 76人

3. 一斉調査

日程 9月23日(木)、24日(金)、25日(土)、26日(日)を中心に前後約1か月間
参加者 延べ991人
調査地点 85地点(市内73地点、市外12地点)

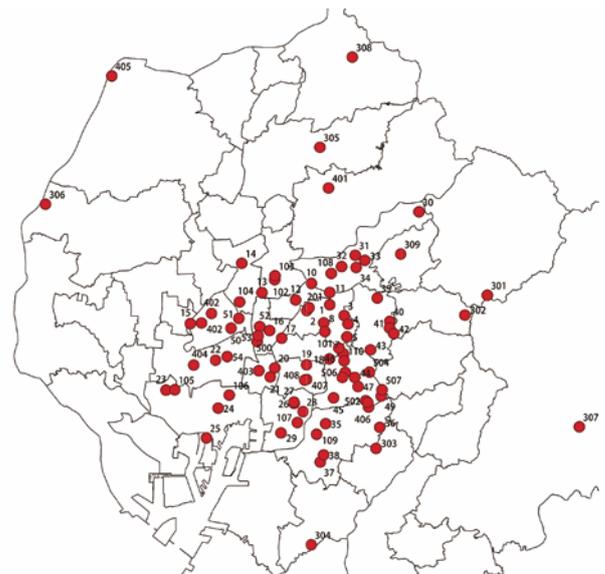


図1. 調査地点

●実施方法

1. 調査対象

調査対象はすべてのテントウムシとしました。テントウムシは2mm以下の小さい種類が多く、調査する現地でテントウムシかどうか見分けることが難しい場合があるため、テントウムシと思われる小さくて丸い虫をすべて採集することになりました。

2. 採集方法

草地などで捕虫網を振るスウィーピング、樹木の枝や葉を軽く叩き落ちてくるテントウムシを受け取るビーティング、葉などにとまっているテントウムシを見つけて採るルッキングなどで採集しました。

3. 同定・観察

採集したテントウムシは1個体ずつ、同定資料に基づき分類し、種類名を記録しました。同定後、リーダーの解説により採集したテントウムシを観察し、それぞれの特徴を確認しました。



図2. 採集の様子



図3. 同定の様子

4. 再同定

採集したテントウムシはすべて、なごや生物多様性センターへ提出してもらい、講師の戸田氏と岩田氏により再同定を行い、種を確定しました。

調査結果

今回の調査で採集した総数は2,050個体でした。再同定で種を確定したところ、テントウムシ科の昆虫は42種、1,676個体でした。その内訳は表1のとおりです。

374個体はテントウムシ以外で、カメムシ科の幼虫が33.2%、ハムシ科が21.9%で、この二つで半数を超えていました。

●名古屋市での初記録

名古屋市内で採集されたテントウムシは36種、1,528個体でした。これまでに名古屋市内で記録されている種は41種でしたが、今回調査では外来種5種類を含め13種類が初記録の種でした。そのうち3種類は愛知県でも初記録でした。これで、名古屋市のテントウムシは54種が確認されたことになり、多様性の把握において大きな前進が見られました。

●名古屋市の外来種

名古屋市内に分布している外来種（国内由来の外来種を含む）のテントウムシは、クモガタテントウとバダリアテントウが従来から知られていました。今回調査で、ツシママダラテントウ、ツマアカオオヒメテントウ、ミスジキイロテントウ、ムネハラアカクロテントウ、モンクチビルテントウの5種が新たに確認され、計7種類が分布していることが分かりました。モンクチビルテントウは94個体確認され、分布が拡大していることが推察されます。

なごや生きもの一斉調査2021～テントウムシ編～

表1. 調査結果

種名	確認数	確認地点
ナナホシテントウ	260	36
キイロテントウ	168	37
クモガタテントウ	165	36
クロツヤテントウ	144	30
ヒメカメノコテントウ	131	40
ダンダラテントウ	128	36
ナミテントウ	128	32
クロヘリヒメテントウ	118	31
モンクチビルテントウ	94	37
ハダニクロヒメテントウ	63	22
コクロヒメテントウ	52	21
アカホシテントウ	51	10
ムーアシロホシテントウ	51	13
ツシマクロヒメテントウ*	37	16
オオタツマアカヒメテントウ	10	6
ハレヤヒメテントウ	9	7
ベダリアテントウ	9	5
セスジヒメテントウ	7	4
ニセツマアカヒメテントウ*	6	3
フタホシテントウ	6	5
シロジウゴホシテントウ	4	3
ババヒメテントウ	4	4
シセンクロテントウ	3	3
ジュウサンホシテントウ	3	2
ヒメアカホシテントウ	3	3
シロジウシホシテントウ	2	1
ツマアカオオヒメテントウ	2	1
ニジュウヤホシテントウ	2	2
ムネハラアカクロテントウ*	2	1
ヨツボシテントウ	2	2
アカイロテントウ	1	1
オトヒメテントウ	1	1
クロスジヒメテントウ	1	1
シコクフタホシヒメテントウ	1	1
ツシママダラテントウ	1	1
トホシテントウ	1	1
ベニヘリテントウ	1	1
マクガタテントウ	1	1
ミスジキイロテントウ	1	1
ムツキボシテントウ	1	1
ムツボシテントウ	1	1
ヨツモンヒメテントウ	1	1

■ は名古屋市初記録 (*は愛知県初記録) 赤字は外来種



図4. 確認数が多かった上位4種

考察

● 生息環境別の分布

今回調査では、テントウムシの種類名を記録するとともに、採集した場所の環境を表2の6種類に分けて記録しました。

表2. 採集場所の環境

A	草地・荒地	D	樹木 (幹)
B	植込み・生け垣	E	水辺 (葦原など)
C	樹木 (枝先・葉)	F	その他

今回調査で50個体以上見つかったのは13種で、個体数全体の92.8%を占めました。それらを生息環境別に比べてみると図5のとおりです。

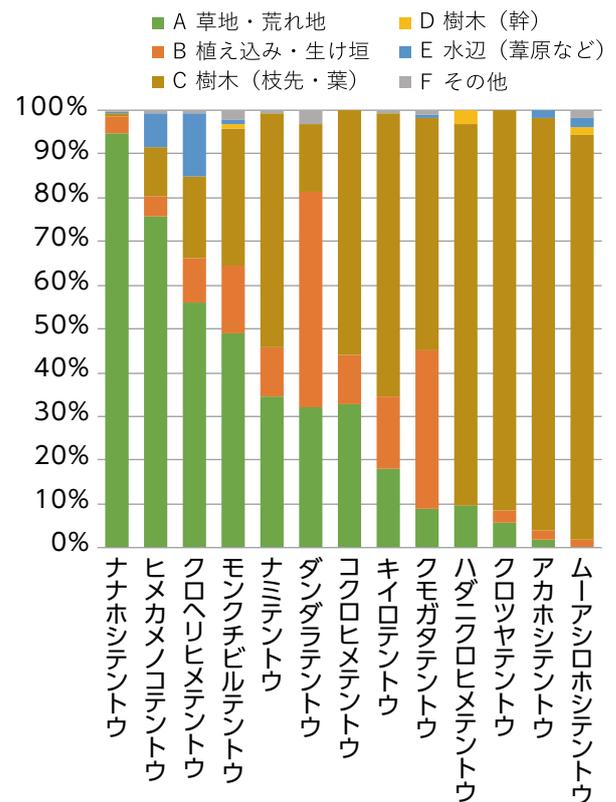


図5. 生息環境別の分布

生息環境ではC：樹木の枝先が最多で、次にA：草地・荒地に多く見られ、この二つで全体の82.6%を占めました。一方、D：樹木の幹やE：水辺に棲むテントウムシはあまり見つかり

ませんでした。水辺については、調査地点の多くが公園や学校で、池や河川の周囲での調査が少なかったこともあります。

テントウムシは特定の種を除き、そのほとんどが多くの種類のアブラムシを食べることが分かっており、エサが原因で生息環境が偏るのではなく、環境とエサの組み合わせを好んで生息します。

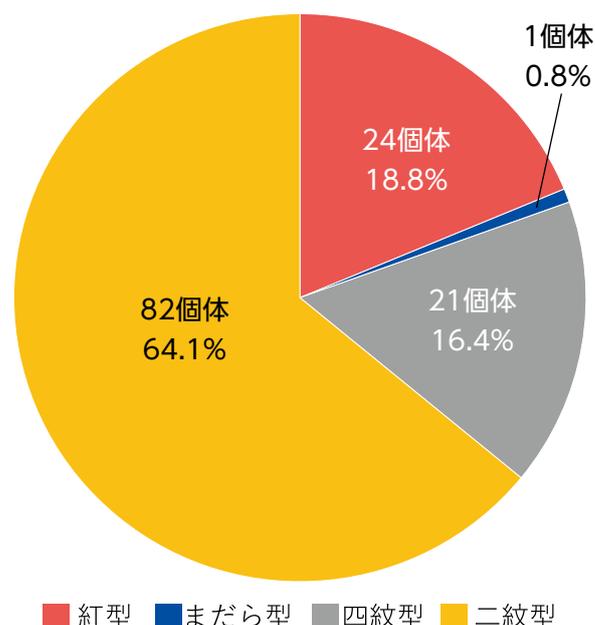
●ナミテントウの斑紋型

ナミテントウは北海道から南西諸島まで広く分布が知られており、背面の斑紋には黒地に赤い点のあるものから、紅一色のものまで様々なバリエーションがみられ、一般に北へ行くほど紅型が多くなる傾向が知られています。

今回の調査では、総数128個体のナミテントウが採集されました。その斑紋の出現率について解析しますと、表3のように二紋型が82個体で64.1%と一番多く、まだら型は1個体で0.8%でした。斑紋の出現割合は図6のようになり、これは近隣の大阪あたりの出現率と似たものでした。

表3. ナミテントウの斑紋型

型	紅型	まだら型	四紋型	二紋型
斑紋				
確認個体数	24	1	21	82
出現率	18.8%	0.8%	16.4%	64.1%



調査当日の様子



東山の森 へいわの森



東山の森 ふれあいの森



神宮東公園



興正寺公園



大坪小学校



大江川緑地

池干し ～猪高緑地すり鉢池～

はじめに

今回の池干しは、地元団体による浚渫に伴い、水質や水生生物の定性調査を実施するものである。これに合わせて生物の保護も行った。

実施にあっては、池干しの方法や運営について、地元団体と行政から成る「すり鉢池池干し実行委員会」を立ち上げて行ったものである。

次世代の担い手を育てるために、地域の小学生や大学生にも参加してもらい、なごやの自然について啓発活動も行った。

主な活動内容

- 池干し事前講習
- 事前調査
- 池干し調査
- 水生生物の保護および里帰り放流

今年度の活動記録

●池干し事前講習

内容 池干しを実施する猪高緑地の自然を知って頂くための講習会を以下の場所と日程で実施した。

- 第1回 池干しで守る水辺の生物多様性：
2021年6月5日
- 第2回 猪高緑地の自然：2021年7月3日
- 第3回 調査の現状から学ぶ猪高緑地の生態系：
2021年8月7日
- 第4回 調査の現状から学ぶ猪高緑地の生態系：
2021年9月4日
- 第5回 池干しと猪高緑地の保全：
2021年10月2日



図1. 事前講習の様子

●事前調査

各項目を以下の日程で実施した。

水文調査：2020年3月24日、5月21日、
7月20日、12月11日、
2021年3月19日、4月23日、
8月23日、11月11日

水質・プランクトン調査：
2020年2月15日、4月8日、
7月30日、10月19日、
2021年1月26日、4月12日、
8月31日、10月19日

フロラ調査：2021年1月17日

水生生物調査：2020年2月22日、
2021年7月17日

カメ類調査（浮島型ワナ）：2020年9月14日～
2021年11月10日（動物部会）

ウシガエル・アメリカザリガニ防除：
2021年6月1日～
2021年7月30日（両生類部会）

連携 名東自然倶楽部、名古屋市環境科学調査センター、南山大学

●池干し調査（本番）

池干しによる調査を以下の日程で実施した。
2021年11月14日

連携 すり鉢池池干し実行委員会（貴船学区、上社学区、極楽学区〈地元3学区〉）、名東自然倶楽部、名東土木事務所、名東区役所、

名古屋市環境科学調査センター、なごや生物多様性センター)、名古屋ECO動物海洋専門学校



図2. 協力して捕獲する池干しの様子



図3. 地元の方の興味を集めた展示エリア

結果と今後について

池干し調査の結果（表1）については、事前調査で生息している種は確認できていたものの、想定を超えるほどの、全長30cmのフナ類やブルーギルが多く捕獲され、池の大きさからは予想できない結果となった。また、昆虫類はとても貧弱な状況であることや、すり鉢池内に生息する個体数の割合が明白となった。

外来生物は半数以上を占めており、ブルーギルが優占種として挙げられる。しかし、ウシガエルやアメリカザリガニは事前調査では多く見られたこともあり、潜在的にはその割合はさら

に多くを占めると考えられる。

この調査は、特に各班のリーダーと学生、地元団体のご協力により、安全に実施できたことや、全ての個体数を計測することができたことなど、大きな成果を得ることができた。

今後、地元団体や学生との連携を継続して、増殖する恐れのあるウシガエルやアメリカザリガニの防除活動を行うことで、生態系のコントロールを目指した保全・管理を進めていきたいと考えている。

また、浚渫や池底の露出によって、池の水質改善や、在来生態系の回復がどのように変化していくのかを、モニタリング調査を実施し注視していきたい。

表1. 池干し調査結果

グループ	種名	個体数
両生類	ウシガエル	292
魚類	ミナミメダカ	129
	モツゴ	1238
	フナ類	109
	コイ（飼育型）	15
	メダカ（改良品種）	2
	ナマズ	1
	ブルーギル	3386
甲殻類	カワリヌマエビ属の一種	76
	スジエビ	1244
	アメリカザリガニ	320
昆虫類	オオヤマトンボ（幼生）	2

設立10周年記念オンラインシンポジウム

はじめに

なごビオは2011年5月に、なごや生物多様性センターは同年9月に設立されており、2021年に設立10周年を迎えました。これを記念して、なごビオとセンターが共催で、設立10周年記念オンラインシンポジウム「なごやの生物多様性～2030年に向けて～」を下記の通り開催しました。

日 程 令和4年1月22日(土)

会 場 オンライン開催

視 聴 者 143人

プログラム

基調講演：国立環境研究所
生物多様性領域 室長
五箇 公一氏

提 言：名古屋大学大学院環境学研究科
教授 香坂 玲氏

座 談 会：五箇氏、香坂氏、なごビオ幹事他

基調講演

ダニ学がご専門の五箇公一氏に「ワンヘルス～生物多様性保全と感染症管理～」をテーマに講演していただきました。



五箇 公一氏

最初に生物多様性の重要性と、それが劣化してきた要因について説明していただきました。社会・文化を含めた人間社会の維持にとって、生

物多様性による生態系サービスが不可欠であり、劣化の大きな原因として我々の日常生活があることを、日本がモロッコのタコを大量に食することや、化学物質が奇形魚を生むことなど、身近な例をあげて説明していただきました。

感染症については、新型コロナウイルスのことを中心に説明していただき、動物の生態系の最上位に大量の人間が君臨し、大量の廃棄物や排エネルギーを出したことから、人の天敵としてウイルスが進出してきたと強調されました。その上で、かつての日本が維持していた共生型循環型の社会（里山）の構築を提言されました。

提言

香坂玲氏に「愛知なごやから考える生物多様性のこれからの10年」と題して、次の座談会のテーマにあわせた話題を提供していただきました。



香坂 玲氏

都市での生物多様性保全の意義では、シンガポール指標や民間の取り組みとの連携(OECMs)として、知多半島での取り組みを紹介していただきました。流域圏に対する保全の責任では、ドイツのミュンヘン市水道局が有機農業の促進を行っている事例を紹介していただきました。多様な主体との連携では、自治体を含む非国家主体など様々な主体の参画を提言いただきました。

座談会

「センター／なごビオの未来」をテーマに、なごビオ幹事等、以下の出席者による座談会を行いました。

講師 五箇 公一氏、香坂 玲氏

高校 東邦高校科学研究部、
名城大学附属高校自然科学部

幹事 大矢 美紀、熊澤 慶伯、佐藤 裕美子、
高木 和彦、瀧川 正子、戸田 尚希、
長谷川 泰洋、藤谷 武史、矢部 隆

センター専門員 西部 めぐみ、曾根 啓子

進行役をセンター職員の安田となごビオ副会長の小菅が務め、まず、センターとなごビオの設立の道のりと活動内容を紹介し、その後3つのテーマで意見交換しました。

●都市の生物多様性を保全する意義

名古屋市にもヤマトサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ニホンイシガメなどの希少種がいると紹介がありました。ローカルで小さな団体が多く活動していることで地球の環境が保全されるという感想があり、都市部での保全は教育的効果が大きいという意見がありました。

●流域圏の生物多様性保全に対する責任

なごや東山の森づくりの会がかつて木曾川の上流と交流活動をしていた例、センターが森林環境譲与税の事業で上流の高山市へバスツアーを行った例、桜山商店街で上流の生産品のアンテナショップを出している例などが紹介されました。

●活動の活性化に向けた多様な主体との連携

参加した高校から、身近に自然がない世代にモチベーションを持ってもらうにはどうすればよいかと質問があり、自然の面白さを知っている人にはその面白さを伝える責任があるとの助言があり、センターに対してその拠点として機

能してほしいと期待されました。また、生きものが好きでない人に生物多様性の意義を伝えるのが主流化であり、それには面白さの工夫も必要との提言もありました。

最後になごビオの長谷川会長が挨拶し、なごビオのこれからの10年として、①他世代との協働の推進、②政策提言機能の強化、③センターの博物館的機能強化への寄与、の3つの目標を掲げました。また、地域の皆さんに生きものに触れ、知ってもらう機会を増やしていくと表明しました。

なごビオは今後も市民・専門家・企業等の皆さんと連携して、生物多様性の保全に取り組んでまいります。

定例会

はじめに

定例会は、協議会メンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに2012年10月から始まりました。

2015年度までは毎月1回の開催でしたが、2016年度から偶数月の第1水曜日と、2ヶ月に1回の開催に変更となりました。スピーカーの選出は各月の担当幹事が決めます。幹事自身がスピーカーとなったり、紹介したいと思う方を招いて、自分達の活動の紹介や、研究しているテーマなどをお話ししていただいています。

開始当初は協議会メンバーに限られていましたが、今は市民調査員や一般の方も参加できるようになっています。日頃聞くことのできないディープな内容のお話を、スピーカーの方からわかりやすく解説していただける機会はなかなかありません。そんなこともあってか、毎回、この会を楽しみにしている常連の方も増え、大学生や高校生、時には小学生まで参加することもあり、広がりを見せています。

しかしながら、2020年4月より、新型コロナウイルスによる未曾有の社会状況の中で、なごや生物多様性センターで開催していた定例会は、中止を余儀なくされました。

そこで、2021年10月より、テレビ会議システムの普及や利便性の向上により、オンラインでの開催で再開しました。

参加者の表情や雰囲気がかみにくい、などの課題は残りますが、センターへの移動時間を省けるなど、メリットもありました。

また、定例会の様子は録画しており、YouTubeでの公開を試みています。いつでもどこでも視聴することができ、より広く機会を提供することができるようになりました。



図. 定例会の様子 (YouTube)

●開催実績 (2021年10月～2022年2月まで)

回	月日	発表者 (敬称略)	内 容	参加人数
66	10/6	なごや生物多様性保全活動協議会 小菅 崇之	名古屋市のため池 8年間の水草の変化 (オンライン)	15
67	2/2	なごや生物多様性保全活動協議会 小菅 崇之	「生きものが好きな人へ、はじめてのSNS」 (オンライン)	13

会員活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通じたなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用負担
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内

令和3年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和3年度 活動一覧

実施団体名	活動内容
「あいちの海」グリーンマップ	佐久島弁天島の生物調査
地球ハグ倶楽部	大高緑地・琵琶ヶ池の水生物調査
山崎川グリーンマップ	山崎川 夏の生き物観察会

上記以外にも、15件の物品の貸出を行いました。

令和3年度 市民調査員への催事案内件数

月	R3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年 1月	2月	3月
件数	3	2	5	2	5	1	3	2	1	5	2	2

佐久島弁天島の生物調査

はじめに

「あいちの海」グリーンマップでは、昨年度末に、なごや生物多様性センターに調査結果のまとめとして論文を提出した「三河湾のウミウシ類調査～南知多町長谷崎・聖崎」の続きとして、佐久島弁天島での調査を始めました。今年度は、活動支援をお願いした今回の調査を含め、6回の調査を行ないました。

指導は、豊橋市自然史博物館学芸員の西浩孝氏にお願いしました。調査には、西氏を含めた4名が参加しました。

調査結果



調査の様子



ミドリアマモウミウシ



サルボウ



ミミイカ



ウミサボテン

「あいちの海」グリーンマップ 大矢 美紀

冬期の調査は、汐が引く夜間に行ないます。今回は、2月1日の23時から翌日の3時まで行ないました。気温は、摂氏2度ほどでしたが、強風のためはかなり寒く感じました。また、海の調査における強風は、海水面に小さな波紋をつくり、生きものを見つけづらくします。今回も、そのために、あまり良い結果は得られませんでした。

まとめ

今回、見つけた珍しいウミウシはミドリアマモウミウシのみでした（豊橋市自然史博物館学芸員の西浩孝氏同定）。これは、今までの調査では一度も見えていないウミウシですが、愛知県初確認であるかどうかを確認するには、しばらく時間がかかります。

夜行性のウミサボテンは、アマモ場の砂地で多数見つかりました。ウミサボテンをエサとし、根元に寄生するタテジマウミウシ類を探したのですが、一頭も見つかりませんでした。

寒い2月には、毎年、生物数は減るのですが、今回は強風が災いとなり、あまり良い結果を得ることが出来ませんでした。

【確認生物・・・貝類 ウミウシ類・・・】

ヤミヨキセワタ、アメフラシ3

ミドリアマモウミウシ、アオウミウシ
シロウミウシ、ウミナメクジ、ブドウガイ
ウスキシセワタ、サンカクウミウシ
ブドウガイ、サルボウ2

大高緑地・琵琶ヶ池の水生物調査

地球ハグ倶楽部 代表 坂部 里咲・副代表 高松 一史

はじめに

大高緑地を中心に親子で週末に遊ぶ団体です。
合言葉は…

美味しい！楽しい！美しい！

自然の恵みをとって食べる“美味しい”

自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”

自然の神秘を五感で感じる“美しい”

これらを活動の3本柱として、体験活動を開催しています

活動目的

「自分と人と地球をハグできる力を育む」
ことを目的に本物の自然を体験できる週末イベントを開催。愛知県名古屋市を拠点にして親子と一緒に遊ぶ自然活動をしています。

こんなバーチャルな時代だからこそ、自分の全感覚と身体を使った本物体験を積み重ねて生きる力を育みたい。

- 自分を信じる力
- 大切な人を愛する力
- 持続可能な地球を守る力

地球ハグ倶楽部では、この3つの力を育むことを目的に活動しています。



図1. なにが取れるかな？

活動内容

県営大高緑地内にある琵琶ヶ池の水生物の調査を行いました。参加者には事前にお知らせを出して“エサ”の選定をご家族で相談して、当日、持参頂きました。

かっぱえびせん等（お菓子）、ちくわ、サラミ、ウインナー等（食材）様々なエサになりそうなものを、もんどり（なごや生物多様センター借用）に入れて、池に仕掛けました。



図2. 採集風景

調査結果

モツゴ、ブルーギル、テナガエビ、ヌマエビ等が採集できました。

もんどりは、小さなお子さんでも簡単に採集が出来ることで、親子で遊ぶ体験として、週末の楽しい一日になったと思います。

山崎川 夏の生き物観察会

山崎川グリーンマップ 大矢 美紀

はじめに

2008年から、毎年行なっている山崎川の生物観察会です。例年は、夏休みに入ってすぐの時期に行なうのですが、今年度は講師の都合で、夏休み前に行ないました。近年、夏休みに入ると、猛暑による熱中症が心配になりますので、この時期を選んだのは、良かったのかもしれませんが。

日時は7月18日(日) 10:00~12:00。

調査結果

このイベントは、地域ですっかり定着しており、瑞穂区内の小学生からの参加申し込みが多くありますが、コロナ感染症の予防のため、一般参加人数を23人に押さえました。その他、スタッフは、講師（アウトドアタレントの鉄崎幹人さん）を含めて10名。



ガサガサで生物を捕まえる



捕獲した生物の説明を聞く子どもたち



アユカケ

カメ罟でクサガメのメス2、オス1を捕獲。いずれもマーキングはありませんでした。アナゴ罟にウシガエル3匹が入りましたが、破れ目から2匹逃走。1匹のみ確保しました。山崎川グリーンマップとして初めて、アユカケを3匹捕獲しました。その他の結果を下に記載します。

【たも網で捕獲した生き物】

ウナギ小5、メダカ1、スミウキゴリ30、ドジョウ5、ザリガニ3、オイカワ2、スズキ小1、ギンブナ大1

【調査用定置網で捕獲した生き物】

テナガエビ大20、ヌマエビ多数、モツゴ1、モクズガニのオス1・メス1、ゴクラクハゼ5

まとめ

今回のイベントでは、アユカケが3個体、捕獲されました。山崎川では、数年前にアユカケ1個体が見つかり、地域の新聞に載りました。それ以来のことで、これは非常に貴重な発見でした。

山崎川下流部では大規模な護岸工事が続いておりますが、ウナギやアユカケ、モクズガニが海から上がってきています。

外来種のカメについては、防除が進んでおり、捕獲することが難しいレベルになってきました。

このイベントは来年も続けます。それまでに、パンデミックが収束していることを祈るばかりです。

地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

令和3年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和3年度 活動一覧

実施団体名	活動内容
名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校 理科部	山崎川生物調査活動
名古屋市立西城小学校	生活科授業「むしとなかよし」
細口池生きもの復活クラブ	細口池生きもの復活クラブ活動報告2021

上記以外にも、3件の物品の貸出を行いました。

生活科授業 「むしとなかよし」

名古屋市立西城小学校 小林 哲

はじめに

名古屋市立西城小学校は、名古屋市守山区の南西にあり、北には庄内川、南には矢田川が流れ、近くには小幡緑地西園がある比較的自然に触れる環境の残っている学校です。学校の敷地内には、斜面を利用した果樹園や草取りを行わない野草園があり、生活科の「むしとなかよし」の授業は、校内のこうした環境を生かして行われています。今回は、「なごや生きもの一斉調査2021」に参加したときの様子と、その後の授業で見られた子どもたちの様子を紹介します。

活動内容

●親子で参加した「なごや生きもの一斉調査」

7月に全校の家庭に「親子でテントウムシ調査に参加しませんか」と呼び掛けたところ、27組68名の親子が「なごや生きもの一斉調査」に参加希望がありました。調査当日の9月25日は快晴に恵まれ、捕虫網を持った子どもたちが校内の草むらや樹木の枝にいるテントウムシを熱心に探しました。

採集した時間は、1時間ほどでしたが、69頭のテントウムシを採集することができました。採集した個体をなごや生物多様性保全活動協議会の方に同定していただいた結果、12種類のテントウムシが確認されました。



図1. テントウムシを探す親子 (2021年9月25日)

同定結果からマクガタテントウなど、名古屋市で初めて確認されたテントウムシも見つかったことに、子どもたちは「びっくりした」「私たちの学校って、すごいね」とつぶやいていました。今回の「なごや生きもの一斉調査」に参加したことで、子どもの自然を見る目が広がったと感じています。

●生活科授業「むしとなかよし」

低学年の子どもたちは虫が大好きで、普段から校庭に飛んでくるチョウやトンボを追いかけています。9月の調査に参加した子どもたちは、小さな虫に対する興味・関心が高まり、花壇の小さな虫を見つけて「これは、何という虫？」と聞きに来ることが増えました。10～11月には、生活科授業で虫を探したり、虫のことを調べたりする活動を行いました。



図2. 子どものかいた記録の一部 (2021年10～11月)

上の記録のように、虫の特徴を細かく捉えたり、虫と触れ合う楽しさを感じたりする子どもが育ちました。

まとめ

身近な自然を知ることが、生命を尊重する心情や態度を育てる第一歩であると考えます。今回の活動を通して生きものを知ることにより、「もっと見つけたい」、「もっと知りたい」という探究心を高めることができました。これからも、子どもの自然体験を大切にしながら、心豊かな子どもたちを育てていきたいと思っています。

細口池生きもの復活クラブ活動報告 2021

細口池生きもの復活クラブ 代表 浅井 正明

はじめに

●ツバメのねぐらが復活して4年



活動が9年経過し、1万羽ともいわれるツバメが戻り、ヨシ原の育成と水面の保持が活動の中心となっています。ヒメガマ、アカメヤナギの除去が進みましたが、完全に除去することは困難なため、ある程度は許容しています。今年は7月中旬から10月上旬までツバメのねぐら入りを確認し、多くの住民が観察に訪れました。8月には多くの子どもたちと生きもの調査を行い、クサガメやモクズガニを採集し、浮島型カメワナを仕掛けて3年目で初めてミシシippアカミミガメが11匹捕獲できました。講演会等を通じてクラブの活動成果を伝えることができました。



活動結果

●定例活動：毎月第2土曜日 会員数15名

活動日	活動内容
4月10日	ヒメガマ除去、カメワナ補修
5月8日	ヒメガマ除去
6月12日	ヒメガマ除去、湧水地保全
7月10日	ツバメねぐら入り観察
8月20日 8月21日	カメわな・モンドリの設置、生物調査・解説及び特定外来種除去、浮島型カメわなアカミミガメ11匹捕獲
9月11日	ヒメガマ除去
10月9日	ヒメガマ除去
11月20日	ヒメガマ・ヤナギ除去、ヨシ刈り取り
12月11日	ヒメガマ・ヨシ刈り取り
1月・2月	池周囲の園路工事のため休止

●随時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 月2回程度	池内清掃、排水口清掃、水鳥調査など

●調査結果 8/20・21に実施、参加者53名

調査は、カメわな、モンドリを使って捕獲調査をしました。クサガメ1、モクズガニ成体7、ミナミヌマエビ1、フナの仲間、モツゴと在来種はやや増加しました。一方外来生物は、ミシシippアカミミガメ、コイ、カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニを確認しました。特定外来生物は処分しました。



●9年間で確認された種

分類群	種名
魚類 6種	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類 4種	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ
は虫類 3種	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ
両生類	ウシガエル(幼体多数、成体)
鳥類 24種	バン、オオバン、アオサギ、コサギ、カルガモ、コガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ、カワラヒワ、カワウ、クイナ、ヒクイナ、シロハラクイナ、オオジュリン、スズメ、ハシボソガラス、モズ、ムクドリ
昆虫類 10種	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ

まとめ



湧水か所の保全を活動目標の一つにし、石を敷き、周囲のヨシやヒメガマを除去し砂浜を復元しました。湧水量は以前と同等で池の水質向上に役立っています。9年間ヒメガマを除去した結果、ヨシの生育域と水域が増進し、ヨシは優占種として占有しています。一方、ヒメガマも依然として成長が旺盛で、生態的役割もみられるため一部は残存することにしました。今後、水鳥やトンボ類、水生昆虫などの調査を実施し、コイ等外来種の餌食行動の実態を明らかにすることが望まれます。

助成金事業

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や、新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりや新たな活動の創出を応援しています。

開始から7年目にあたる令和3年度は、6件の助成を行いました。

また、今年度から助成金事業に対する寄付の募集を開始し、合計37,400円（銀行振り込み：25,000円、活動報告会における募金：12,400円）のご寄付をいただきました。寄付金はユース（高校）への助成金に充当させていただきました。ご協力ありがとうございました。

令和3年度 活動一覧

実施団体名	活動内容
愛知県立一宮高等学校 生物部	イタセンパラ保護と人工産卵装置の開発
地球ハグ倶楽部	みつばちと命のサイクルから学ぶ！ ～BeeHappy∞Project～
東邦高等学校 科学研究部	矢田川河川水の研究と透明樹脂標本の制作
名古屋経済大学市邨高等学校 科学研究部	名古屋経済大学市邨高校ジオトープの つくり方・考え方・活かし方
名古屋昆虫同好会	次世代育成事業「親子で楽しむ昆虫調査会」
鳴子きずなの会	鳴子中央公園における、子育てファミリーとの 協働による雑木林の多様性保全活動

イタセンパラ保護と人工産卵装置の開発

愛知県立一宮高等学校 生物部顧問 原 いずみ

はじめに

本校生物部は平成28年度より、イタセンパラの飼育・広報活動を行っており、平成30年度から「安全に産卵できる産卵床の開発」というテーマで研究を開始した。

イタセンパラ等のタナゴ属は淡水生二枚貝に産卵する特徴があるが、二枚貝の減少に伴って、少ない二枚貝にタナゴ属の魚が大量に卵を産み付けてしまう「過産卵」が発生している。タナゴ属の魚の卵は二枚貝のエラに入るため、「過産卵」が生じると、二枚貝は呼吸困難で死亡してしまい、更に減少が進んでしまう。また、産卵床である二枚貝が失われるとイタセンパラも減少し、「共倒れ」になってしまう。

そこで、この問題を解決すべく、人工産卵装置を開発・研究している。

活動内容と研究結果

昨年度は、相模川ふれあい科学館でミヤコタナゴ用に開発された人工産卵装置 (<https://sagamigawa-fureai.com/diary/20190625-4913/>) を参考にしながら、より安価に、簡単な仕組みで産卵装置が開発できないか検討した (図1)。

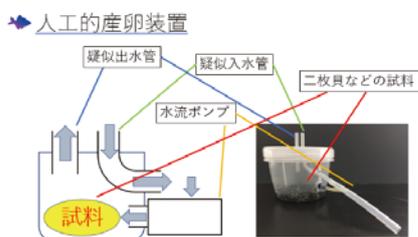


図1. 模式図 (左) と人工産卵装置 (右)

今年度は、この装置を改良するとともに (図2)、試料として実物のタテボシガイや、先行研究よりタナゴ属の魚が反応すると言われている数種類のアミノ酸水溶液を入れ、タイリクバラタナゴ及びカネヒラを用いて^{*}行動を観察した。繁殖行動を引き起こすきっかけとして、明暗の条件を変えて観察したところ、図3のような結果になった。



図2. 改良版の模式図 (左) と人工産卵装置 (右)

▶ 実験1-1 結果

A.二枚貝	B.光	結果
あり	明条件	産卵
	暗条件	反応
なし	明条件	反応なし
	暗条件	反応なし



▶ 実験1-2 結果

アミノ酸	光	結果	アミノ酸	光	結果
セリン	明条件	強い反応	グリシン	明条件	産卵
	暗条件	弱い反応		暗条件	弱い反応
リジン	明条件	強い反応	グルタミン	明条件	弱い反応
	暗条件	弱い反応		暗条件	弱い反応

強い反応…つづく回数が多い、縄張り行動をする個体が多いなど
弱い反応…つづく回数が比較的小さい、縄張り行動を多く示さないなど

図3. 実験結果と装置外で放卵する雌 (右上赤丸内、米粒のように見える白い点が卵)

貝やアミノ酸を用いると、1度産卵させることに成功したが、装置内に卵が入らず (図3)、卵が全て成魚に食べられてしまった。また、アミノ酸を用いた実験では、雄に繁殖行動を誘引することはできたが、雌が産卵に至ることはなかった。
※イタセンパラは絶滅危惧種で実験に使用できないため、一連の実験は同じタナゴ属で繁殖行動も方法も類似している魚で実施している。

まとめ

今年度は、雄は繁殖行動を示したが、卵で腹部が膨れていても雌が産卵することはほとんどなかった。今後は、雌の産卵行動を誘発させる要因を引き続き検討していきたい。そして、粘り強く実験・観察を繰り返すことを通して、「研究」面から種の保全活動について考えさせていきたい。
※本研究詳細は下記のURLから視聴できます。

<https://youtu.be/w2xvaFXE4cs>

みつばちと命のサイクルから学ぶ！～BeeHappy∞Project～

(地球ハグ倶楽部) 代表 坂部 里咲 副代表 高松 一史
たねとみつばち 土と太陽 白金 丈英

はじめに

大高緑地のニホンミツバチの調査・研究・保護を目的として“みつばち”を通して、自然の命のサイクルを学び、地球環境に対する意識を高める「～BeeHappy∞Project～」を企業や学校に広める活動を目的としています。

活動目的

みつばちは怖くない女子高生達の想いから始まった「BeeHappy∞Project」は、環境指標生物でもあるミツバチと人間、そしてそのライフサイクルに関わる全ての生き物が、幸せに暮らせる為のプロジェクトです。私達は、命が継がれていく日本のために、知る講座、感じる体験、伝えるメディア、守る行動、つながる地域と人の輪を広げます。ニホンミツバチの調査・保護・講座を通して、私たちもミツバチも大きな生態系の一部だと感じられるような活動の輪を広めています。

活動内容

愛知県の都市公園で初めて、ニホンミツバチの巣箱を5基設置、内2基に自然入居しました。モニタリング調査・保護活動を実施。都市公園施設管理許可を6年間(令和8年3月31日まで)頂き、ミツバチの巣箱を教育施設として、公園



図1. 採蜜体験

での市民養蜂講座を開催。“みつばち”から命の循環を学ぶ、生態系を守るための活動を地域に広めています。

紙芝居制作

今年度は、子供たちに“読み聞かせの紙芝居や絵本”の制作に着手しています。このツールを活用して、地球危機や気候変動などを伝えながら活動して行きます。



図2. 巣箱作り風景

まとめ

ミツバチを通じて環境教育が広まり、環境保護への意識が高まりました。生命の基盤である土壌と水と環境を守り、命が継がれる持続可能な日本にして行きたいと考えています。

コロナ禍の影響で参加者の人数の制限やコロナウイルス対策を十分に考慮して実施しました。

矢田川河川水の研究と透明樹脂標本の制作

東邦高等学校 科学研究部顧問 平川 史子

はじめに

学校近隣の川や池で生き物とのふれあいを楽しみながら標本を作ったり、水質調査をしたり、継続的に活動しています。

今年は、矢田川河川水の微生物がブドウ糖をどの程度分解するのかを化学的酸素要求量(COD)の測定から調べてみました。

調査結果とまとめ

1. 矢田川河川水のブドウ糖分解能力

微生物が存在する河川水交換水にブドウ糖を添加して酸素を供給し(写真1)、CODの日ごとの変化を調べました(表1)。



河川水を4倍に希釈して用いたのは、測定レンジ内に測定値が入るようにしたためです。

表1の結果は、ブドウ糖濃度が0.01w/v%以下であれば2日間で添加したブドウ糖すべてが無機化されるが、それ以上になると完全に無機化されるまでにさらに日数がかかることを示しています。

表1. 矢田川河川水4倍希釈に対してブドウ糖濃度を変えた場合のCODの変化(mg/l)

		曝気開始	1日目	2日目	3日目	5日目	8日目
ブドウ糖濃度	ブドウ糖添加なし	4	4	4	4	4	4
	0.00125% (0.005%)	20	12	5	4	4	4
	0.0025% (0.01%)	30	25	5	5	4	4
	0.005% (0.02%)	60	60	40	20	5	5
	0.01% (0.04%)	100以上	100以上	100以上	90	50	10
w/v%							
()内の濃度は4倍にかけ戻したもの							

そこで矢田川河川水の流速を約0.7km/hと仮定して(平均流量と川の断面積からざっくり計算)、河川水が伊勢湾河口にたどり着くまでに2日かかる地点が存在するのかどうかを調べてみると、瀬戸川と赤津川が合流する地点(瀬戸市)

であることがわかりました。

河川水に含まれる微生物の働きは場所によってかわらず均一であること、川の流速は河口まで一定であると仮定して「矢田川河川水1m³が分解できるブドウ糖の量」を推察してみたところ、河口から2日地点からブドウ糖を流した場合「矢田川の水1m³・1秒あたり100gまでは分解できる。」という結論を得ました。

室内での実験結果が実際の河川水に適用できるのかはわかりませんが、河川水に含まれる微生物の力を感じるとともに、分解する量には限界があるということを感じることができました。

AITサイエンス大賞ポスター発表にて公開したところ、「川底の石に付着している微生物が多いから実際の分解能力はもっと高いのでは?」、「河川水の自然の流れは激しくない。曝気せずに実験したら。」などの意見をいただきました。次年度は過マンガン酸カリウムを用いた滴定によるCOD測定を行い、希釈していない河川水で追試験することを予定しています。

2. 透明標本・樹脂標本

昨年度透明標本の樹脂封入を成功させた3年生から技術を受け継ぎ、1・2年生も試行錯誤を繰り返しました。今年はドジョウやカマツカなどで美しい作品を作ることができました。2023年度の東邦高校創立100年でもあり、記念として敷地内の植物を標本にすることも考えています。

学校近隣の自然と戯れながら今年もいろいろなテーマに挑戦していきたいです。



名古屋経済大学市邨高校ビオトープのつくり方・考え方・活かし方

名古屋経済大学市邨高校 科学研究部顧問 佐藤 豊

はじめに

名古屋経済大学市邨高校は、名古屋市千種区北千種にある都市の学校である。中学・高校の生徒は、約1,500名在籍している。校内の面積は、約40,000㎡であり、そのうち800㎡を学校ビオトープとして活用している。活動する前は、農薬や化学肥料が用いられており、また、人工芝および、芝がビオトープ内を占めていた。そのため、令和3年度は、可能な限り、芝生を撤去し、プラスチックの残骸を掃除するなどの自然回復の活動を行った。また、農園は、たい肥（植物性・動物性）を作り、土壤に施すことで有機農法を目指した。学校で環境の保全を考えることができる場所の創出を行うことで、校内にて体験ができる授業を追求した。



●なごや生きもの一斉調査「テントウムシ編」

（9月15日と9月21日）学内での環境保全活動の普及を行いたく、授業内で校内のテントウムシ調査を行った。調査人数は72名であった。



（1月25日）名古屋昆虫同好会の戸田尚希氏に、本校のテントウムシの同定結果を選択生物授業にて、zoomで講義を頂いた。生徒は、生物多様性と外来種について考えを深めたようである。



活動内容、調査結果、活動の成果など

●小・中学生への生物多様性の啓発と収穫祭

（6月12日）なごや環境大学「ジャガイモ掘り！」校内の農園にてジャガイモ（ダンシャク・紫月・メイクイーン）を校外の小学生と保護者を招き入れ、ジャガイモ掘り体験をして頂いた。

（6月15日・10月15日）収穫祭を生徒で行い、収穫したジャガイモやサツマイモをJAなごや千種支店において、無料配布した。地産地消。

（7月17日）愛知サマーセミナーにおいて、SDGs15陸の豊かさを守ろうに、学校ビオトープづくりの活動の実際を中学生に対し、現況を踏まえ生徒が説明した。

まとめ

令和3年度は、主に学校ビオトープづくりに時間を費やした。掃除・芝生の撤去・有機農法への転換と自然回復が課題であった。令和4年度は、水場をつくり鳥たちを学内によぶため、里山モデルづくりを行う。生徒たちは、活動に積極的であり、貢献的である。部活動だけではなく、生物を学ぶものに命の尊さを実感できる教育を展開することが大切であると考え。生物多様性の活動に理解を求め、現実の課題に対応できるような生徒の育成に努めていきたいと考える。

次世代育成事業「親子で楽しむ昆虫調査会」

名古屋昆虫同好会 企画幹事 大野 康司

はじめに

名古屋昆虫同好会では、2015年から助成金を活用させていただいた子供向け「昆虫採集・標本作成教室」を毎年開催しています。

昨年はコロナ禍で中止しましたが、本年は「親子で楽しむ昆虫調査会」を再開いたしました。

開催概要

今回は、コロナが落ち着いていない時期での募集ということもあり、例年よりも少なめの32名（1回平均）の親子の皆様にご参加いただきました。

●第1回 猪高緑地公園（5/22）

里山でよく見かける昆虫を求めて、猪高緑地公園で採集会を実施。前日の雨など苦戦したものの、樹皮下に潜むクワガタなどが観察・採集でき、自粛疲れの子供たちはホント楽しそう。

午後の標本作成では、予め用意した昆虫を用いて標本作成を体験していただきました。

●第2回 おんたけ休暇村（7/24-25）

御嶽高原では宿泊採集会を実施。夕立や熊が出没するなど多少ハプニングもありましたが、「ライトトラップ」では、少ないながらもお目当てのミヤマクワガタ、オオミズアオ、セミ、トンボ、ハチなど多くの虫が飛来し、親子で熱心に観察・採集を続けていました。

●第3回 標本作成・同定会（8/14）

第三回は、夏休み期間中に各自で採集した昆虫の同定・標本作成を任意参加で実施。

21名の参加でじっくり話ができて、参加者同士の交流にも役立ったと思います。

●第4回 平和公園くらしの森（10/9）

平和公園くらしの森では、バッタ、コオロギ、カマキリなど主に秋の虫を採集・観察。

最後に子供たち全員に「修了証」を授与し、子供たちには「参加した感想」を発表してもらう。

子供たちからの「楽しかった」の一言が、ボランティア講師陣への最高のご褒美です。



図1. 第1回 標本作成（なごや生物多様性センター）



図2. 第2回 ライトトラップ（御嶽高原）



図3. 第4回 集合写真（なごや生物多様性センター）

参加者からの評価と新規入会

参加者全員から「非常に良かった」・「良かった」と高く評価いただき、7年間の新規入会員数は139名。次年度からは自力開催を目指します。

表1. 名古屋昆虫同好会 年度別新規入会員数（名）

2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	計
5	11	21	27	28	19	28	139

※2020年はコロナのため中止

鳴子中央公園における、子育てファミリーとの協働による雑木林の多様性保全活動

鳴子きずなの会

はじめに

60年ほど前から地域住民に親しまれていた鳴子中央公園の樹林地。しかしその様相はアカマツ中心から今はアベマキなどの落葉広葉樹と常緑高木が混在する林に変わった。また、数少ない住民の雑木林から、鳴子団地の造成により整備された公園内樹林地に変貌した。

その変遷をたどりながら、同時に現在の課題を明らかにし今後の森の健全な生育方法を探るために、自然観察会と植生調査、調査の概略結果報告会を行った。同時に、今後の活動についてのワークショップを行いある程度実行した。

この活動に、次世代を担う子供たちとその親が参加するきっかけづくりと生物への親しみのために、ビートルズベッドでのカブトムシの生育と落ち葉から腐葉土づくりを絡ませた。

活動内容

当初6月に予定していたネイチャーゲームなどの森遊びはコロナ禍で中止した。

● 7月24日(日) 自然観察会 参加者18名

講師に眞弓浩二さんを迎えての自然観察会を行った。すぐ近くの中学校全生徒と小学校の3年生以上の600人ほどにチラシを配布したが数人の参加だった。大人も含めた参加者で、眞弓講師の樹種、森の変遷、常緑樹と広葉樹、萌芽更新と実生更新の現場見学、数十年前の古地図のため畑や田んぼとため池の減少、今後の極相林の様子のイラストなどを学んだ。

● 8月29日(日) 植生調査 参加者12人

樹林地の木の樹高・枝下高・枝張り（樹冠幅）・幹直径などの測定方法・記入方法を学びながら、数値化して見えて来た森の現状と問題点を話し合った。

● 10月10日(土) 調査概要結果報告会と

今後の活動ワークショップ 参加者12人

眞弓講師から立木密度別の森のゾーン地図、植生樹種一覧、5メートル四方の植生調査結果から樹幹投影図、相対照度、健全度評価の説明を受けて、現在の樹林地の課題を共有化した。

● 12月12日(日) 鳴子中央公園 森フェス

参加者約150人

ホルンとオカリナによる森の音楽会、カブトムシの一生の説明と堆肥への葉の循環、落ち葉かきと落ち葉プール遊び、ハンモックづくりなどを行った。

● 2月20日(日) 落ち葉入れイベント (予定)



7月24日 自然観察会



8月29日 植生調査



12月12日 森フェス

まとめ

小規模な都市公園内の樹林地における生物多様性保全の試みの第一歩としてはそれなりの成果が上げられたのではないかと思います。

しかし、生徒や児童が昆虫や動物には関心が高くても、植物に対する関心が低い現実を実感させられた。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

- 目的
自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え守ることを目的とする。
- 活動
 - ・観察会
 - ・調査・保全・保護活動
 - ・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
 - ・なごや生物多様性センター、天白区役所、他パートナーシップ事業
 - ・他団体との情報交換など



△ヒメボタル (オス)

令和3年度の活動について

- 観察会：四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施
 - 5/14 (金) そっと観察しよう～ヒメボタル＝コロナ禍による中止＝ 連携：天白もり・フォーラム
 - 5/16 (日) ヒメボタルを観察しよう 主催：天白生涯学習センター
 - 9/23 (木)、9/25 (土)
なごや生きもの一斉調査2021～テントウムシ調査編～ 主催：なごや生物多様性保全活動協議会
 - 10/16 (土) チョウやカマキリをさがそう！
旅をするチョウ“アサギマダラ”に出会えるかも！ 連携：天白もり・フォーラム
- 「天白プロムナード」事業に係るリーフレット及び動画制作に情報・画像データ提供
発行・発信：天白区役所

活動団体の紹介 主な活動場所 相生山緑地オアシスの森 (名古屋市天白区)

相生山緑地自然観察会

携帯電話：080-9110-3330 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp

- 例会の予定：定例観察… 5/13、5/14 ヒメボタル、10/15 秋の昆虫やアサギマダラなどをテーマに観察会実施
その他…随時、関係機関などの催事に参画予定

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾の海で見られる素晴らしい自然を、名古屋の人や地元の人に知ってもらうこと。

コロナ禍で人が集まることが難しくなった2020年と2021年は、観察会など一般参加者を集めてのイベントは、規模を小さくしましたが、ウミウシなどの生物調査は、スタッフを中心として、ほぼ例年通りの活動を行なうことが出来ました。

令和3年度の活動について

- ①4月初旬 南知多町聖崎・長谷崎のウミウシ調査開始 (夜間調査も含む)。
- ②5月15日 「ヨットで佐久島へ！」三河湾のスナメリ観察と、佐久島弁天島で磯の生物観察会。
- ③5月25日 南知多町羽豆岬での師崎小学校の磯の観察会のお手伝い。
- ④6月9日・23日 大井漁港内でクサフグ産卵観察会。
- ⑤8月10日 令和3年度の佐久島生物調査開始。12月から令和4年2月までは、夜間調査となる。
- ⑥10月18～19日 丹羽要一さんの底引き船に乗船し、三河湾の海底の底生生物の調査。
- ⑦10月24日 ラグーナ蒲郡ヨットハーバーで、愛知県主催の三河湾大感謝祭にブース出店。



左は、人気のアオウミウシとシロウミウシ。上左のキイロハゲジタクミウシと右のハナサキイバラウミウシは、愛知県初確認

大阪湾では絶滅したニュウトウタデジマウミウシ

活動団体の紹介 主な活動場所 三河湾 南知多町・名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp ウェブサイト：http://www1.m1.mediakat.ne.jp/aichisea/

- 例会の予定：不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

愛知守山自然の会

団体の目的・主な活動内容

2004年から守山区の小幡緑地本園を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に、①一般参加者向けの自然観察会の実施、②せせらぎ湿地の保全・保護、③マメナシなど希少生物の保全、④研修や各種イベントの参加など、人と人、人と自然を繋げられるよう、楽しみながら活動をしているボランティア団体です。

全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全などに参加しています。

日常的には、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごや生物多様性保全活動協議会の行事に積極的に参加しています。

令和3年度の活動について

- 4月：桑名市多度町八壺谷マメナシ保全応援
- 4月：小幡緑地本園のマメナシ観察会
- 6月：マイスター講座（守山生涯学習センター主催）
- 7月：キノコの研修会
- 8月：大矢川上流の生き物調査（サマースクール）
- 9月：テントウムシの一斉調査（小幡緑地西園・本園にて）
- 10月：蛭池のマメナシ観察会（守山自然ふれあいスクール実行委員会主催）
- 12月：森づくり体験会・マメナシの観察と保全（緑政土木局主催）



△マメナシの観察会の下見（4月）



△マイスター講座（6月）

活動団体の紹介

主な活動場所 小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会

TEL/FAX：(052)711-3087 E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp

■例会の予定

【自然観察会】毎月第2土曜日 10：00～11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前 9：45集合）

【保全活動日】毎月第2水曜日・第4日曜日 10：00～12：00（小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地）

雨池ホタルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成10年5月末、会員の1人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人々が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

令和3年度の活動について

- 毎月第1金曜日午後8時から1時間ほど、大森交番前に集まって雨池公園と地域の防犯パトロールを行いました。
- 毎月第2及び第4土曜日は雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。さらに秋から冬にかけてはヒメボタル生息地の雑草や木の枝を刈り取り、幼虫の生育を促しました。
- 大森北小学校の生徒たちが描いてくれた啓蒙ポスターを周回路沿いに掲示しました。
- 3月に予定していた学区子ども会連合会や大森北小学校PTAと共催の「もちつき大会」は2年連続で中止となりました。
- 5月29日に予定していた「ヒメボタル観察会」は同様に中止とし、無観客観察会として会員のみにて行いました。ほぼ前年並みの多くの飛翔を見ることができました。来年度こそ子供たちにきれいなヒメボタルの輝きを見せてあげたいと思います。
- 8月後半に行う予定の「夏だ！元気にあそぼう会」（魚釣り、虫取り、スイカ割りなど）も残念ながら中止になりました。



△夏だ！元気にあそぼう

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会

TEL：(052)798-2764 E-mail：tymmoka@gmail.com

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出していた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に、湿地復元活動の趣旨説明や許可を得るための話し合いをしました。2002年に県から許可が下り、2003年から活動に入りました。

令和3年度の活動について

活動テーマの「東海の湿地植物と生き物たくさん」を実現するために年間活動内容（右表）を決めて、毎月第二日曜日9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きをメインに行っています。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。それ以外では、外来種のアメリカザリガニ・ウシガエルの駆除及びトンボのヤゴ調査と保護を行っています。



【主な活動内容】

1月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
2月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3月	湿地上部・誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	里山植物群落の草刈りと落ち葉掻き
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

活動団体の紹介 主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会（代表：大主順一）

TEL：(052)413-4435 E-mail：yoka1115@mediacat.ne.jp

■例会の予定：無し

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内的カスミサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のカスミサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。カスミサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

令和3年度の活動について

なごや生物多様性保全活動協議会の両生類部会が発足したのをきっかけに、今まで行ってきた産卵地の整備や一斉調査を部会の活動として行なった。また、昨年引き続き危機的な産卵地の個体群に関しては、幼生を一時的になごや多様性センター内の施設にて人工で飼育し、上陸直前で元の場所へ戻す活動を行った。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルやニホンアカガエルの産卵状況も把握し、遺伝的多様性の把握も視野に入れながら調査を行なった。

活動人数約9人



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市全域

尾張サンショウウオ研究会

TEL/FAX：(052)781-2595（瀧川正子）

E-mail：fwie6142@nifty.com（藤谷武史）

takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp（瀧川正子）

■例会の予定：不定期

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

◆目的

人間と自然のよりよい関係が模索されている中、雑木林（里山林）を一つのモデルとして取り上げ、フィールドをめぐりながらその役割を解明し、今目的価値を探究することによって、両者の新たな共生関係を見出す。そして、かつての役割を失い、放置されつつある雑木林の新たな活用法を探る。

◆主な活動内容

- ・オープンセミナー ・研究会 ・フィールドワーク ・研修ツアー
- ・協働参画活動など

◆これまでの主な活動テーマ

・生物多様性環境としての雑木林（里山林保全技術） ・子どもと雑木林（雑木林の教育力・木育） ・アートと雑木林（雑木林の創造力・グリーンウッドワーク） ・公園空間としての雑木林 ・ヒーリング空間としての雑木林（雑木林の治癒力） ・住民参加・協働の場としての雑木林 ・里山保全活動と市民講座 ・里山型公園緑地のマネージメント ・里山林と木質バイオマスエネルギー ・里山林の水源涵養機能と雨水利用 ・里山林と木工芸・民芸 ・雑木林と竹林の管理・利用・竹工芸 など

令和3年度の活動について

- オープンセミナー・研修ツアー…中止
- フィールドワーク
- 里山保全講座 日進市北高上緑地・里山保全実践講座（2021/10/16・12/4・2022/1/22）／春日井市高森山公園・フォレストサポーター養成講座（2021/11/7・11/20・12/11・2022/1/8）／長久手市木望の森・ワークショップ（2021/12/21）など



▲里山保全講座 日進市北高上緑地・里山保全実践講座（2021/10/16・12/4・2022/1/22）



▲里山保全講座 春日井市高森山公園・フォレストサポーター養成講座（2021/11/7・11/20・12/11・2022/1/8）

活動団体の紹介

主な活動場所 特定の活動場所は持たない

雑木林研究会

TEL/FAX：(052)262-3181（令和4年度より変更） E-mail：k-mayumi@aurora.ocn.ne.jp ウェブサイト：なし
定例幹事会：毎月第1月曜日 午後7時より（現在休止）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

団体の目的・主な活動内容

滝ノ水緑地は、名古屋市緑区にあり、約4.4haの雑木林の中に、小さなため池と湿地があります。この地域が市街化される前の原風景を残す貴重な場所です。

私たちは、1997年に「滝ノ水緑地公園愛護会」として活動を始めました。2010年からは「滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会」となり、緑のパートナーとして、名古屋市と協定を結びました。2011年には、滝ノ水緑地維持管理計画を作成して、滝ノ水緑地の植生および生態系を維持・再生するための活動をしています。

令和3年度の活動について

〈定例活動〉

- ・湿地：除草、笹刈り、湿地植物の保護と再生、日照確保のための除伐など
- ・樹林地：おもに常緑樹の除伐、しがらみづくり、落葉かき、枯れ木の処理など
- ・池：池に溜まる落葉の回収など

〈イベント〉

環境デーなごや「身近な自然体験会」（新型コロナウイルスの感染拡大のため10月に延期して実施）

〈その他〉

- ・滝ノ水緑地の維持管理計画に基づき、名古屋市緑土木事務所・名古屋市みどりの協会と三者で、講師の方に緑地の保全状況の確認と今後の活動のためのアドバイスをいただいています。
- ・湿地の保全活動について知識と経験の豊富な方に定例活動日に来ていただき、作業の実践を学んでいます。



▲木を伐る（身近な自然体験会）

活動団体の紹介

主な活動場所 滝ノ水緑地（緑区）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

TEL：070-2639-6686 FAX：(052)895-8628 E-mail：sumicco.g1601@gmail.com
■例会の予定：毎月第3日曜日 9：00～12：00（11月～3月は、10：00～12：00）（変更することがあります）

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】

全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。

「ハグ+コミュニケーション=ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝え広げる。自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育てる。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。

【活動の3本柱】

- ・自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
- ・自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
- ・自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験

【育みたい3つの力】

■自分を信じる力 ■大切な人を愛する力 ■自分と地球をハグできる力



令和3年度の活動について

「BeeHappy∞Project」2年目の活動

3月／「蜜蝋ラップワークショップ」

5月／「BeeHouseづくりワークショップ」

6月／「みつばち夏仕事」

9月／「みつばち採蜜体験」

12月／「ミツバチシンポジウム2021」

1月／「巣箱作り」

4月～9月／なごや環境大学 前期（なごや環境大学）

活動団体の紹介

主な活動場所 愛知県中心

地球ハグ倶楽部

連絡はメールにてお願い致します。 E-mail : info@chikyu-hug.club

ウェブサイト : <https://chikyu-hug.club/>

■例会の予定：不定期（ホームページを参照）

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：83名
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年3回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日（建国記念の日）
- 観察会（年4回以上）合宿（年1回）

令和3年度の活動について

（事業年度：4月～翌年3月）

○主な活動

- ・会誌「蜘蛛」を発行
- ・総会・研究発表会・懇親会（2月11日、今年度はzoomによる遠隔会議）
- ・観察会（通常年間4回程度。今年度はコロナのため1回のみ）
- ・夏休みこども観察会（八事山興正寺）
- ・合宿（中止）
- ・三重クモ談話会および関西クモ研究会との合同観察会（中止）
- ・ブース展示 環境デーなごや2021（今年度は出展は中止、こども観察会を実施）



活動団体の紹介

主な活動場所 小幡緑地、八事山興正寺、など

中部蜘蛛懇談会

TEL : (052) 872-5853 FAX : (052) 872-585 E-mail : mail@ckumo.sakura.ne.jp

ウェブサイト : <http://ckumo.sakura.ne.jp/> 《[中部蜘蛛懇談会] で検索》

○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎

○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料（開催日はウェブサイトに掲載）

東谷山湿地群保全の会



▲シデコブシ

▲シラタマホシクサ

団体の目的・主な活動内容

私たちは名古屋市の最高所である東谷山（198m）周辺に残る東海丘陵要素型湧水湿地群の保全活動を行っています。この湿地群は過去より遷移による湿地性生態系の劣化を指摘されていました。『この地域にしかない独特の生態系を残したい、この素晴らしい体験を未来に繋げたい』という思いで、2006年に県有林事務所と有志が保全活動を実施。2011年には有識者、県環境部、協力団体が中心となり当会が発足し活動がスタートしました。以後、県有林事務所と利活用協定を結び、保全活動と植生調査を継続させて頂いています。

東谷山湿地群は砂礫を含んだ粘土質であり、雨水の浸透を妨げることで貧栄養湿地（湧水湿地）を形成しています。このまま放置しておくと湿地は森林化し、希少な動植物と共に消滅します。

私たちは湿地を圧迫する要素を除去し、健全な東海丘陵型湧水湿地群の保全と動植物の保護を図ります。

- 湿地内のヌマガヤや枯れ草を刈り取り、湿地外へ持ち出し富栄養化を防ぐ。
- 周辺や湿地を覆う樹木を伐採し、集水域の確保と陽の光が差す明るい湿地を維持する。

令和3年度の活動について

- ① 湿地保全活動：例会としてY湿地保全12回、N湿地保全11回実施。
- ② 湿地動植物の記録：湿地性固有植物調査、会報『湿地だより』発行など。
- ③ 湿地周辺道路のゴミ拾い：投棄によるゴミを拾い、守山環境事業所に引き取り頂いています。
- ④ 当会の活動に対し、公益財団法人 愛銀教育文化財団より助成を頂きました（2021年10月）。
- ⑤ 会としての活動10周年の集大成として記念誌を作成（2022年3月）。

活動団体の紹介

主な活動場所 東谷山湿地群（Y湿地、N湿地など）

東谷山湿地群保全の会

E-mail : fuku.moriyama@gmail.com（福田）

■例会の予定：【東谷山Y湿地保全】毎月第一土曜日 9：30～12：00（東谷山散策道入口 9：30集合）

【東谷山N湿地保全】毎月第三水曜日 9：30～12：00（東谷山フルーツパーク第一駐車場 9：30集合）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸湧水自然公園』（仮称）として今の自然をそのまま生かしながら生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水が、この流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやれるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし、保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが、私たち「伝える会」の活動です。

令和3年度の活動について

蟹原湿地の管理方法を見つけた事は、大きな収穫です。希少植物の分布に沿った5つのエリアを麻ひもで分けて、刈る順番のサイクルを作りながら、その年分の区域刈りを行なう。それによって希少植物の観察もできるし、繁殖管理もできる。本年、ここでもモニターリング路と子供らの入れる散策路づくりを初めました。

300mに及ぶ三ヶ月湿地の管理を、徐々に始めています。

今までは、段丘に連なる竹藪の中を人が通りやすくして、空間を確保するだけの整備作業を行って来ましたが、今年度は西端から、ここを埋めている藤根・枯れ木・倒竹を片づける作業に取り掛かりました。

自然公園全体の2/3は湿地です。手こずりながらの活動が続きます。



▲宮前湧水

▲スズカカンアオイ

活動団体の紹介

主な活動場所 才井戸流全流域

中志段味の自然を次世代に伝える会

TEL : 080-6968-2327（深田） E-mail : f-jin@yc5.so-net.ne.jp

■例会の予定：定例打合せ会／毎月第3土曜日 15：00～17：00

定例作業日／毎月第1土曜日 9：00～11：00 他随時

なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが活動目的です。活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。他との協働も積極的に行います。

令和3年度の活動について

8月、なごビオのサマースクール「外来昆虫駆除活動」を猪高緑地で行いました。コロナの影響で家に閉じこもり気味な子供たちは喜んで参加してくれました。キマダラカメムシが13匹、ヨコゾナサシガメが1匹捕獲駆除できました。

また、「外来種を食べて減らす講座」も開催しました。場所はウィルあいち、講師は豊田市で活動している「竹々木々工房」さんで、モウソウチクを駆除してメンマを作り販売している話を聞き、メンマの試食もしました。外来種を駆除する活動は、殺処分するだけでは、つらくてかわいそうなイメージが強く、駆除が進みません。だからこのようにおいしく食べる活動は参加しやすくなり、駆除活動が進むのではないのでしょうか。

10月には猪高緑地の南部で特定外来生物オオキンケイギクの駆除活動を行いました。一般の方2名も参加していただき、根堀ガマを使って2時間の作業でした。草刈り後の小さな株なのでゴミ袋1個分ほどの量ですが目立つものはほとんど抜き取れました。

1月には明徳公園で外来樹木トウネズミモチの駆除実験を行いました。針金と番線を使って根本を締め付け枯死させる「番線法」です。これまで私たちが行ってきた方法と違って食塩を使わないので、これどうまく行けば、安価で簡単に、周辺の土壌・植物や動物に影響を与えずに駆除できることとなります。3か月後に効果を見に行きます。



▲番線法

活動団体の紹介 主な活動場所 その都度検討

なごや外来種を考える会

TEL : 090-8867-9725 FAX : (0561)62-5510 E-mail : nonaka@kato-ken.co.jp

ウェブサイト : <http://nagorai.org/> 活動ブログ : <http://blog.goo.ne.jp/nagorai>

■例会の予定：不定期

「なごや環境大学」実行委員会

団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

令和3年度の活動について

令和3年度は、多様なつながりを活かしつつ、SDGsを意識して事業や講座を重点的に取り組んでまいりました。

環境省、金融庁や地域企業の方を講師に迎え、国の環境白書を活用しSDGsについて考える講座や、これからSDGsに取り組みたいと考えている企業向けに、先進的な取り組みを紹介するSDGsオンラインセミナーなど、SDGsに対する理解を深める講座を実施したほか、SDGsを始めとする国内外の新しい動きを取り入れ、最新のデータや情報等を付加し、環境問題全般の知見を分かりやすく整理したテキスト「なごや環境ハンドブック」を用いた講座を全3回にわたり開催しました。

そのほかにも、森林環境譲与税を活用し、岐阜県御嵩町をフィールドとした森を育む人づくり講座の実施や、高校生・大学生を対象とした昭和区まちづくりワークショップなど、人づくり・人の環づくりを意識した事業を実施しました。

〈令和3年度の主な主催事業〉

- ・「環境白書から実践へ2021オンラインセミナー」
- ・「企業向けSDGsオンラインセミナー SDGs実践企業から学ぶ」
- ・「なごや環境ハンドブック」から考えるこれからのこと」
- ・森を育む人づくり講座

活動団体の紹介 主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会

TEL/FAX : (052) 223-1223 E-mail : jimu@n-kd.jp ウェブサイト : <https://www.n-kd.jp>



開催日時	講師	テーマ
5/28 14:00-15:00	藤原 久貴	企業イメージの向上
6/25 14:00-15:00	山田 寿志	社会の問題への対応
7/30 14:00-15:00	村岡 知寿	生存戦略
8/27 14:00-15:00	濱崎 佳寿子	新たな事業機会の創出
9/24 14:00-15:00	小島 克博	経済からみたSDGs

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

団体の目的・主な活動内容

当協会は、豊かで快適な港湾環境を創出するため、名古屋港の臨港地区内及びその周辺の緑化を推進し、適切な環境保全に努め、名古屋港の発展と親しまれる港づくりに寄与することを目的に、緑化に関する調査や研究、緑化に関する思想の普及啓発、緑にふれあう機会と場を提供する事業などを行っています。

また、名古屋港の臨港緑地のうち16の施設を指定管理者として管理運営しており、維持管理で発生する刈草や剪定枝を原料に堆肥を製造し、臨港緑地の花木の育成に利用するなどの「緑のリサイクル」を実践するとともに、環境に配慮した循環型の緑地管理に努めています。

令和3年度の活動について

- 花の名前当てクイズ
- 富浜緑地わくわく体験教室
- 緑地見学会
- 園芸講習会「香りを楽しむ春の寄せ植えづくり」
- 刈草、剪定枝を原料とした堆肥の製造
- 堆肥の無償配布
- 伐採木無償配布（燃料として）



△緑地見学会



△堆肥製造

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋港の臨港緑地

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

TEL : (052) 659-0880 FAX : (052) 659-0628 Email : info@npgpa.jp
ウェブサイト : <http://www.npgpa.jp/>

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の約80%を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ることや、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国の約280名の虫好きが入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

令和3年度の活動について

- 「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行
- 1月第3日曜日 特別講演会：昆虫写真家 栗林 慧 氏
- 2月～9月第二土曜日にzoom月例会を実施。11月より対面例会を再開
- 7月に親子採集調査会 in おんたけ国民休暇村
- 6・10月に親子採集調査会 in 名古屋市内の公園
- 8月に夏の採集会 in 開田高原



▲ライトトラップ親子採集会



▲R3夏採集会開田高原

活動団体の紹介

名古屋昆虫同好会（会長：間野隆裕、事務局：戸田尚希）

TEL : 090-3567-0672 E-mail : one.sheep.toda@gmail.com

ウェブサイト : <http://nagoyakondo.com/>

活動場所：毎月第2土曜 18：30より、中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4階で、卓話や情報交換、名前調べ会などの例会を実施しています。

名古屋産業大学現代ビジネス学部・ 大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室

団体の目的・主な活動内容

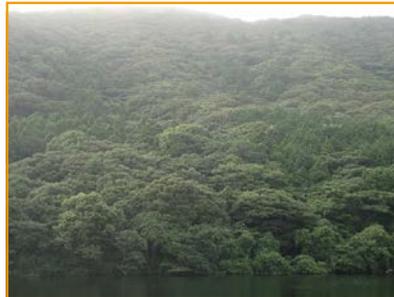
身近にある自然環境の生物多様性を高めると共に、より生態系サービス（自然からの様々な恵み）が豊かな地域社会を作るための方法を探求しています。

研究室のゼミだけでなく、エコレク部等の部活・サークル活動とも連携して、Web図鑑の作成、魅力的な散策ルートの開発、生物多様性に関するゲーム開発などを行っています。

令和3年度の活動について

里山や社叢などの伝統的緑地や都市緑地、都市公園を対象に、生物多様性、生態系サービスの実態把握とその評価手法の研究を行っています。

- ・東海地方の社叢調査
- ・中部地方における菌従属栄養植物の生育環境調査
- ・尾張旭市内主要緑地の動植物調査
- ・名古屋市内公園緑地の植物相、植生調査及び保全活用状況の調査
- ・瀬戸市内重要生態系の保全活動支援、植物調査



活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市、尾張旭市、瀬戸市、東海地方の重要生態系

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室

TEL : (0561) 55-5101 (大学代表) FAX : (0561) 52-0515 (大学代表) E-mail : y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（（公財）日本自然保護協会による認定資格者）によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。

令和3年度の活動について

- ①市内11箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチャ・フィーリングなどの特色ある自然観察会を実施しました。
- ②子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を1回実施しました。
- ③名古屋市やその近郊の身近な自然にふれるために、7月になごや生物多様性保全活動協議会主催の「サマースクール」を実施しました。
- ④イオンモールナゴヤドーム前で実施された「おうちで環境デーなごや2021パネル展」にブース出展しました。
- ⑤名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業に協力しました。
- ⑥会員のスキルアップを目的とした研修会を1回実施しました。
- ⑦愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑧機関紙「なんじゃもんじゃ通信」を6回発行しました。
- ⑨ホームページなどを通じて情報発信しました。



活動団体の紹介

主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL : (052) 782-2663 FAX : (052) 781-8127 E-mail : takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト : <http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定 : 例会は実施していません（役員会は偶数月の第3日曜日）。

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち



▲活動自粛の看板（外堀本町橋上）

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動しています。

令和3年度の活動について

- 本年度も昨年度に引き続き、コロナウイルス感染防止のため、北土木事務所さんと相談の上、自粛しながらの活動でした。
 - ・例年は、ホタル発光の時期、毎晩23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々のご案内をしていましたが、コロナ感染防止のため、HPでの公表はやめ、人々へのパンフレット配布もやめました。→パンフレットは地域の学校等、お尋ねがあったところにお渡ししました
 - ・マスコミ等による広報はお断りし、お話し会等も自粛しました。
 - ・しかし、現地へは例年通り4月～6月上旬深夜メンバーの一部が出かけて、安全確認とホタルのカウントを行い、貴重なデータを残すことができました。
 - ・本年度は、4月23日初見・5月19日がピーク・6月1日が最終でした。ピークの頭数は1700頭ほど。全体としては例年より少なめとなりました。(年によって多い少ないはあります)。梅雨入りがとても早く、それを察知したように初見もピークも早く、自然界の生き物の凄さを感じさせられました。
 - ・コロナの影響で2年間ほとんど広報をしていなくても、見学者はホタルのピークに合わせて来ていました。美しく力強く優しいヒメボタルの光は、人から人へと口伝えできちんと伝わっています。「受け継ぐ者たち」というのは、こうしたここに来られた皆さん一人一人であり、正しいこと、気持ちのよいことが伝わっていくといいなと思いました。
- 例年の清掃活動は、北土木事務所さんと相談の上、今回は身内だけで行いました。

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

TEL/FAX：なし E-mail：meijo_himebotaru_kanbu@googlegroups.com
 ウェブサイト：https://sotobori.amebaownd.com/
 ■例会の予定：不定期

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

名古屋市立大学では、2009年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、生物の学名を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという国際的取り組み（DNAバーコーディング）に携わり、東海地方の動植物や東南アジアの魚類など、様々な生物の標本とDNAデータを収集するとともに、それらの進化、分類、生物地理の研究を行なっています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

令和3年度の活動について

多くの方々のご協力のもとに、愛知県を中心に両生類・昆虫類などの標本収集を行いました。これらの標本からミトコンドリアDNAの塩基配列決定を行い、DNAバーコードライブラリーを作成するとともに、系統解析を行いました。さらに、学外の共同研究者とともに、名古屋市及びその近郊の植物について遺伝的類縁性を解明する研究も新たに開始しました。アウトリーチ活動では、名古屋市立3高校の生徒や東邦高校科学研究部の生徒を対象に、生物多様性に関する体験実習をそれぞれ実施しました。一方、東南アジアの国々における生物多様性の保全を目指して、インドネシアとタイの魚類を対象とした国際共同研究にも取り組みました。

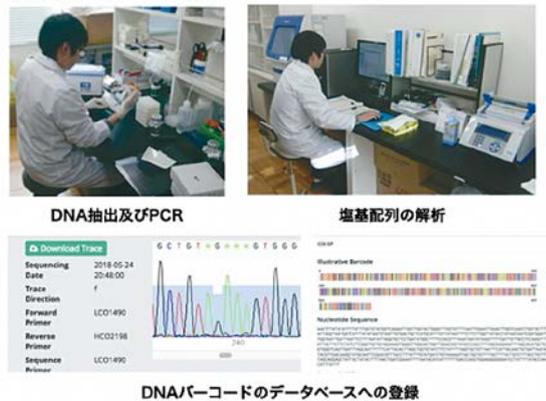
活動団体の紹介

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター
 TEL：(052)872-5851 E-mail：biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp
 ウェブサイト：http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/
 ■例会の予定：なし

- 様々な資料の収集と保存



- DNAバーコードの解析



なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

令和3年度の活動について

- 令和3年度の加盟団体数 森づくりを楽しむ28団体が加盟
 - ・定例会の開催：偶数月 第2金曜日18：30～定例会の開催
奇数月 第2金曜日18：30～幹事会の開催
 - ・フィールド訪問の開催
加盟団体の活動日に訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、12月は白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会への現地訪問が行われました。
 - ・テーマ協議
定例会では、「森づくり活動における大径木の除伐について」「なごや環境大学との提携について」など協議しました。
 - ・スキルアップ研修会の開催
2月は庄内緑地公園 グリーンプラザ2階講習室にて安全な保全のために～注意が必要な生き物たち～ マムシ・スズメバチなどがまかれたり・刺されたり・かぶれた時の対処について学びました。
 - ・広報の充実
森づくりを広報するために、森づくりのパネルをつくりました。
 - ・その他 市主催の森づくり講座を4個所の緑地で実施しました。



▲森づくり講座 マメナシの観察と保全小幡緑地本園緑が池南池畔東



▲フィールド訪問・白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会 (12月)

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

(事務局) TEL (052) 731-8590 FAX (052) 731-0201

ウェブサイト：<http://www.nga.or.jp/partnership/introduction.html>

《「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」で検索》

■例会の予定：偶数月 第2金曜日 18：30～定例会の開催、奇数月 第2金曜日 18：30～幹事会の開催

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。

いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。

雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、ソバ班、畑班、田んぼ班など里山くらし体験活動も盛んです。

令和3年度の活動について

定期的な活動は、定例森づくり活動と12の班活動で、雑木林・湿地・竹林の保全活動、子ども森づくり活動、田んぼ、畑、調査活動などです。両生類の生息地保全活動、そして今年から新たに2年計画で、「東山の森 湿地再生プラン策定プロジェクト」を立ち上げました。

また、協働・連携活動として、なごや生物多様性保全活動協議会の東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全活動、森の希少種保全と調査活動、生き物一斉調査。日本野鳥の会愛知県支部と猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いワークショップを実施しました。

活動日数 288回/年、活動人数延べ約3,100人



▲ヨシ刈り



▲萌芽除去作業

活動団体の紹介 主な活動場所 なごや東山の森

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX：(052) 781-2595 E-mail：nh_morizukuri@higashiyama-mori.sakura.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>

【定例森づくり】 活動参加費：会員/無料・一般/200円

活動日時：毎月第1日曜日 9：30～12：30

集合場所：毎回異なります

活動場所：奇数月/いのちの森・うるおいの森 (東山公園南部)

偶数月/くらしの森 (平和公園南部)

NPO 法人 日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となることを希望しています。又、地域の子育てNPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料をしません。

令和3年度の活動について

- ① 農業体験農園（指導付き農園）毎週土曜日（講義と実践）
- ② ダンボール生ゴミコンポスト講座、落ち葉たい肥講座
- ③ 生きもの観察コース（子ども生きもの調査隊）
- ④ なごや環境大学共育講座「都会人の農体験塾」（前期・後期）
- ⑤ 日進・げんき朝市の事務局
- ⑥ その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、イモ掘り、餅つきなど開催。



△生きもの豊かな田んぼ体験



△農業体験農園「あせだくコース」

活動団体の紹介 主な活動場所 日進市本郷

NPO 法人 日進野菜塾

TEL : 090-5443-1518

FAX : (052) 934-7207

E-mail : info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト : <http://n-yasaijuku.com/>

■例会の予定 : 日曜日 9 : 00~12 : 00

日本カメ自然誌研究会

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然（野生）のカメと人が、良い関係を保つためにはどうすればよいかを、みんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごや生物多様性保全活動協議会が発行した「ミシシippiaカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。

令和3年度の活動について

- 3月26日~27日に愛知学泉大学で「第21回日本カメ会議」を開催予定です。
- なごや生物多様性保全活動協議会の動物調査と保全対策部会の一員として、市内のカメ類の生態調査や外来カメ類防除を実施しました。
- また、カメの繁殖や保全について技術的な協力を行っています。
- 観察会やフェイスブックなどでカメに関する情報を発信しています。



▲「人工孵化したニホンシシガメ」



活動団体の紹介 主な活動場所 その都度検討

日本カメ自然誌研究会

住所 : 〒471-8532 豊田市大池町汐取1 愛知学泉大学矢部研究室室内（事務局）

TEL/FAX : (0565) 35-8373 E-mail : kame@gakusen.ac.jp

ウェブサイト : <https://chelonian-japan.cocolog-nifty.com/>

フェイスブック : <https://www.facebook.com/kamesizensi/>

■例会の予定 : 不定期（ウェブサイトを確認下さい）

日本野鳥の会愛知県支部

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は1934年（昭和9年）に創設され、全国に90の支部があります。愛知県支部は本部創設の4年後1938年に中京支部として誕生し今年で84年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらい普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

野鳥を通して自然の楽しさを知っていただく環境学習のお手伝いを致します。詳しくは事務所（末尾参照）へ問い合わせして下さい。

令和3年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

1) 普及活動

探鳥会：年間140回以上 参加者はおよそ2600名
愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い

2) 保護・調査研究活動

愛知県定点調査（県内22箇所で40年以上継続中）、カワウ調査8箇所、サギ調査（東名阪弥富・蟹江インターチェンジ）、コアジサシ調査 県内全域、木曾岬干拓地猛禽類調査



△探鳥会の様子

活動団体の紹介 主な活動場所 各地

日本野鳥の会愛知県支部

住所：〒462-0844 名古屋市北区清水五丁目10-8 グリーンフェロー 3A

TEL/FAX：(052)912-9531 E-mail：front@wbsj-aichi.org ウェブサイト：http://wbsj-aichi.org

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内16か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

令和3年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき（3月末から4月）マリーゴールドなど。ポット移植（5月）
- ・初夏の花苗植え込み（6月）街路樹植えマス・公園花壇など
- ・秋の種まき（9月）パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10月）
- ・秋冬の花苗植え込み（11・12月）

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり・ササユリ自生地の保全活動。

【イベントなどの参加】

今年度も新型コロナウイルス対策で中止になったイベントもありました。感染症対策ができるもののみ実施しました。

緑区内小学校に花苗配布・扇川緑道交流会・なごや生きもの一斉調査2021・なごや生物多様性サマースクール2021・環境デーなごや2021身近な自然体験会・大高緑地（大高竹の会）・鳴子中央公園（鳴子さずなの会）でのイベント。



△竹林調査



△ビートルベット落ち葉かき

活動団体の紹介

花水緑の会

TEL：(052)625-3878 FAX：(052)623-8191（緑区区役所地域力推進室）

E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定：不定期

主な活動場所 こもれび広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園・扇川緑道・白土中央公園坊主山公園・上山公園・滝ノ水緑地公園・清水山・鳴子中央公園・なるばーく・水広下・梨の木公園・左京山・亀が洞

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

令和3年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動

公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動

防災訓練他、年に数回あり。



▲隼人池の生きものを観察する子どもたち

▲防災訓練の炊き出し

活動団体の紹介

隼人池を美しくする会

TEL：090-4468-0500（代表：加藤昌平）

NPO法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

令和3年度の活動について

- 主催事業
「干潟の学校」
「ガタレンジャー養成講座」
「ガタレンジャーJr」
「藤前フォーラム」※今年度は実施せず
環境省・名古屋市等との共催事業
- 各種団体・学校等からの依頼による体感学習
- 環境イベント等への出展
- 環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の運営等

今年度は感染拡大防止の観点から野外企画を中心に人数を制限して実施しました。なかなか平常時の活動に戻れないのが悩ましいところです。



活動団体の紹介

主な活動場所 藤前干潟周辺

NPO法人 藤前干潟を守る会

TEL：080-5157-2002 FAX：なし E-mail：info@fujimae.org

ウェブサイト：<http://www.fujimae.org>

■例会の予定：理事会毎月1回（不定期）・総会年1回

三河淡水生物ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。



▲スナヤツメ調査（水辺の生きもの部会）

令和3年度の活動について

新型コロナウイルスの蔓延で、ネットワークとしての活動は停滞気味ですが、協議会・水辺の生きもの部会の部会員として、また専門家として、名古屋市内の池干しや水生生物の調査等に関わっています。引き続き、愛知県内において、希少種・外来種の調査も行っています。

活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail : fw-life@katch.ne.jp

ウェブサイト : <http://freshwaterlife.g3.xrea.com>

■例会の予定：なし

名城大学野生動物生態研究会

団体の目的・主な活動内容

名城大学農学部生物環境科学科・環境動物学研究室の附属サークルです。水生生物部門、鳥部門、哺乳類部門の大きく三つに分かれて活動しています。卒業研究などで必要になるデータの取り方、扱い方を学ぶことができます。なごや生物多様性保全活動協議会をはじめとする環境保全団体と協力しながら活動しています。

令和3年度の活動について

水生生物部門：

カワバタモロコの域外保全。

水路、ため池調査。

鳥部門：

名古屋市近辺での探鳥会、タカの渡りの観察、ツバメのねぐら入りの観察、バードソンへの参加。

哺乳類部門：

守山リス研究会の定期調査への参加。



▲リス追跡の様子



▲探鳥会の様子

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市周辺

名城大学野生動物生態研究会

Twitterアカウント : @yamonken_abms

■定例会：名城大学N324で月末の木曜日 12：30～12：50

名東自然観察会

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として、自然観察会を行いながら、参加者の方も楽しんで体験し、意識できる活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」、自然との対話を楽しみましょう。

令和3年度の活動について

名古屋市名東区猪高緑地内において、昭和58年に会の設立以来、毎月第2土曜日9:30~定例自然観察会を開催してきました。

令和3年度現在までの参加者は、観察会11回開催し(令和4年3月現在)3月分を仮定すると令和3年度は150~200名になる予定です。また、猪高緑地内にオアシスの森事業として提案して復元された、18面の棚田エリアにおいては、「なごや環境大学」の田んぼ講座活動を連続15年間に渡り、田んぼ体験講座を開催してきましたが、時代の流れ?で田んぼ周辺の環境や田んぼの保護保全の継続に対する意見の変化についていけなくなり、平成28年度末をもって田んぼ14チームを解散とし、耕作活動も撤退しました。猪高緑地内における第2土曜日の名東自然観察会活動は、以前のまま継続して開催しています。平成30年度から初心に戻り、里山環境の残された、自然環境豊かな猪高緑地において、猪高緑地自然観察会の開催を続行させ、自然との出会いで年間テーマを一会一期として、参加者の方々と楽しみながら、生物多様性の保全・保護・地球温暖化による環境の変化などの観察調査活動を行っています。今後ともご支援・ご参加よろしくお祈りします。



△自然観察会の様子

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市名東区猪高緑地内・他

名東自然観察会 名東自然観察会代表 堀田 守

設立：昭和58年4月~初代代表は朱雀栄八郎氏・代表没後H6年度~実績を引き継ぎ継続開催中

TEL/FAX：(052)704-1196 E-mail：hori-tamori@nifty.com

定例観察会：活動日/毎月第2土曜日9:30~午前中 名東生涯学習センター前集合

その他：長袖・長ズボン着用・あれば図鑑・虫眼鏡・双眼鏡・汚れてもよい服装・履きなれた靴

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

主に、猪高緑地の保全活動を行っています。その目的の為の活動を9つのグループがそれぞれの分野で行なっています。

- ①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林管理、植物保護などの保全活動を行っています
- ②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらいます。
- ③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
- ④自然観察グループ…名東区内で自然観察会を開催し、自然豊かな緑地の魅力を伝える活動をしています
- ⑤総合学習グループ…主に、近隣の小中学校の総合学習の時間で環境学習に協力しています。
- ⑥竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
- ⑦調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。
- ⑧畑グループ…里山景観を残しつつ、有機・無農薬の野菜作りを学びます。
- ⑨水の環グループ…猪高緑地の水環境の保全を図ります。

グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

令和3年度の活動について

活動の一覧は右記 Web ページを参照願います <http://sizen.ciao.jp/schedule/2021record220331.pdf>

活動団体の紹介 主な活動場所 猪高緑地 (名東区)

名東自然倶楽部

E-mail：k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

ウェブサイト：<http://sizen.ciao.jp/>

■例会の予定：全体活動日 毎月第1土曜日 9:00~12:00、各グループの活動日はホームページを参照願います



△谷地田で田植え

もりづくり会議



団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してするために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

令和3年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作りと植樹、生きもの観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のテントウムシ編（2021年）、くつつき虫編（2019年）、アリ編（2018年）、淡水貝編（2017年）、カマキリ編（2015年）や陸貝編（2012年）にも参加してきました。

2019年からは、城山八幡宮をはじめ、城山・覚王山地区に残る鎮守の森や斜面林の植生調査を行い、在来種や希少種の保全活動に力を入れています。2021年には茶屋ヶ坂公園の希少種が残るエリアの調査を行い、保全活動を計画しています。

活動団体の紹介

主な活動場所 城山八幡宮 ほか城山・覚王山地区内の樹林地

もりづくり会議

E-mail : morikaigi66@gmail.com

■例会の予定：月1回、定例会議と定例活動

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真ただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

令和3年度の活動について

- ・名城大学附属高等学校との連携による投網講習会の開催（4月）
- ・「第18回身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査に参加（6月）
- ・「庄内川河口・二枚貝調査」の実施（6月）
- ・愛知県の河川協力団体に認定（7月）
- ・矢田川・魚道調査の実施（7月）
- ・「第47回庄内川まつり 魚釣り大会」の開催（11月）
- ・才井戸流れ水質調査
- ・「庄内川における生物等の異臭調査」の実施
- ・SNSやYouTubeを通じた普及・啓発活動



▲庄内川河口・二枚貝調査



▲庄内川まつり 魚釣り大会

活動団体の紹介

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL : (052)794-3876 FAX : (052)796-2344 E-mail : yadashounai@gmail.com

ウェブサイト : <http://www.yadashounai.org/>

■例会の予定：4月総会、以降不定期に役員会開催

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後70年の間に大きく環境が変わりました。そして、特に西暦2000年代に入ると、人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れ始めました。山崎川グリーンマップは2008年より、ミシシippiaカミミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。

近年の夏の猛暑と大型護岸工事、2026年に開催予定のアジア大会に向けての周辺の工事は、山崎川の環境に大きな影響を与えていると思われます。しばらく注意深く様子を見ていく必要があります。

いろいろと問題はありますが、わたしたちは、あくまでも地域の子どもたちと川遊びを楽しむことを第一にして、活動を続けていきたいと思ひます。



▲4月10日 山崎川周辺の野鳥観察会



▲7月18日 夏の山崎川生きもの観察会

令和3年度の活動について

- ①4月10日(土) なごや環境大学共有講座
山崎川の自然を知ろう!鳥の観察
- ②5月8日(土) なごや環境大学共有講座 山崎川の自然を知ろう!!
- ③6月3日(木) 瑞穂区汐路小学校「山崎川の環境」の授業のための生き物捕獲、授業の準備…コロナ感染予防のため、授業の準備を整え、先生にお任せしました。
- ④7月18日(日) 山崎川夏の生き物観察会
- ⑤10月19日(火) 瑞穂生涯学習センター主催 山崎川の勉強会のうち、山崎川の生きもの観察会を担当。
- ⑥10月26日(火) 瑞穂生涯学習センター主催の山崎川の自然と歴史の勉強会の講師を務めました。

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内瑞穂区山崎川

山崎川グリーンマップ

TEL/FAX : (052) 841-6048 E-mail : a-ohya@sc.starcat.ne.jp

ウェブサイト : <http://www1.m1.mediakat.ne.jp/a-ohya/>

■例会の予定 : 不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

四日市大学 野生動物保全学研究室 (野呂研究室)

団体の目的・主な活動内容

当研究室では、地域における動物の分布状況や生息環境を把握するためのモニタリング手法を習得するとともに、外来種や害獣の防除、在来種の保全について実践的に指導しています。

対象として、哺乳類、爬虫類、両生類、魚類など多様な動物群を扱っています。主に三重県北勢地域を活動の場としていますが、愛知県在住の学生も多数在籍しているため、同地域での活動にも積極的に参加しています。

令和3年度の活動について

コロナ禍で学生の活動が制限される中、本協議会の動物部会が実施した隼人池のカメ類調査ならびに猪高緑地のセンサーカメラによる哺乳類調査に参加しました。研究室に所属する学生の卒業論文タイトルは以下になりますが、この内、名古屋市内で実施した調査研究については、本協議会の動物部会、名東自然倶楽部、なごや生物多様性センターに協力していただきました。

「センサーカメラによるイエネコの個体識別と餌場利用-名古屋市内の緑地を事例として-」、「津市におけるカエル類の鳴き声による分布調査」、「山間地域の道路縁におけるニホンジカの出没状況」、「北勢地域の緑地における中・大型哺乳類の生息分布状況」、「地域ネコの餌場が野生動物に与える影響-名古屋市内の緑地を事例として-」、「成長に伴うシベリアイタチ (*Mustela sibirica*) の形態的变化」、「地域ネコ活動およびTNR活動の現状と課題-名古屋市東部地域を事例として-」、「音声調査による都市郊外のコウモリ類生息状況」、「ヘア・トラップ法による中型哺乳類の生息調査」、「北勢地域におけるモグラ類の多様性と体サイズ」。



活動団体の紹介 主な活動場所 三重県北勢地域、名古屋市内

四日市大学 野生動物保全学研究室 (野呂研究室)

TEL : (059) 340-1632 FAX : (059) 365-6630 E-mail : noro@yokkaichi-u.ac.jp

ウェブサイト : <https://www.yokkaichi-u.ac.jp/faculty/environment.html>

